

129
120

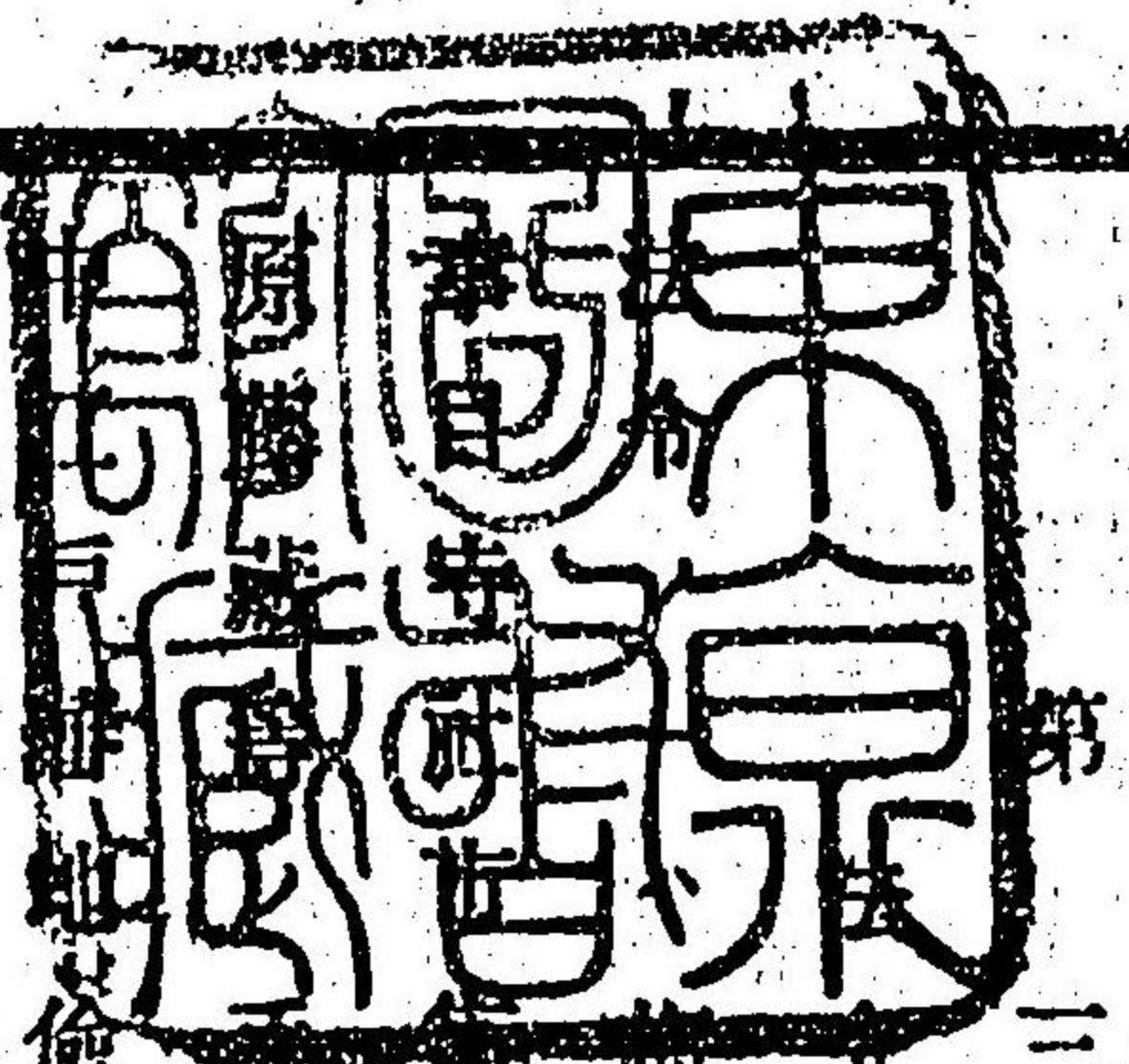
東 京 圖 書 館			
一 二 〇	一 二 九		
冊 號	架 函	類	門

少 年 史
三 冊
一 九

卷ノ九	八	同	七	五	三	二	枚目
裏七	同四	同四	裏十二	同四	表二	裏八	行目
可致ハ	虚をハ	平頭ハ	共和ハ	上役ハ	任途ハ	相圖ハ	誤
可至	虚を	平組	そ和	七役	仕途	差圖	正
廿三	十六	十三	十二	四	三	二	枚目
同二	裏七	同五	同十二	表八	同十二	裏八	行目
親規ハ	罪之ハ	相同ハ	相可ハ	御改ハ	丁目ハ	相馳ハ	誤
新規	罪の	相立	可相	御趣	一日	相弛	正

久留米小史卷之九

戸田 幹
船曳鐵門



一 梅巖公ノ享保年中制定セラレシ士大夫ノ定目
 二 郷村等ノ掟ハ時ノ儒臣湯川丙次伊藤長準合
 三 成リレモニテ法令ノ二ハ義源公弘化年
 村上守太郎野崎平八等公ヲ輔佐制定セラレモニテ此二法
 令ハ有馬氏入封以來二百七十年間龜鑑大典ト稱スヘキモ
 ノナリ

條々

- 一天下一統 御命令の趣一々慎み守る事
- 一切支丹宗門舊制の如く念を入れ相改む事
- 附奇異妖怪の新説を唱へ俗を惑し黨を結ぶの類一切を嚴禁すべき事
- 一文武の教を勵み人倫忠孝乃道を明し尊卑の禮を立て少長の分を正し職祿の格式を定め農民を愛し賦歛役夫等常數の外相増をからざる事
- 一軍法の制器械の類平日其職掌の者一々點檢儲蓄怠るべからず臨機應變の方略ハあらわめ議する及し其時了當つて指揮を受へし留主中の家老乃輩相計らひ申渡旨違犯んをからざる事

- 一武具馬具の堅利を第一とし人々職祿了應し貯へ置るし分限り踰へぬる美麗を用ゆべからざる事
- 一四百石以上の者の乗馬を繫き備ふへし其以下の其意に任すべき事

- 一家老頭人奉行諸士末々了至るまで人々其職務了精を勵み少も怠慢有ぬべからし支配頭等組下の優劣善惡詳し沙汰し諸役人等廉潔よきて是非明し裁決を取行ひ賄賂内縁最賈の沙汰有べからざる事

附凡事の簡了成り煩了敗れすをいふ事形し諸役人等能々此趣を辨へ煩を省き害を除き事々簡便として條理明なる様し心を付を奏事

- 一家老並支配頭の申渡旨違背んをからし頭組下を親み

組下の頭を敬む長の少を慈しむ新ハ舊を敬む舊ハ新を
愛し平生互に和睦一致にへし或ハ黨與を催し姦邪をな
すの類ハ重法に當へし事
一處々の勤番晝夜怠らず相守り怪異の者を改め非常の變
に備へ勤番上下の定期を亂れからせし事
一非常の變出來の時ハ勤番の者のいよ々々番所を固く守
り往來出入を改むをし惣て面々役儀の筋と心を用ひ支
配頭の相圖を受亥と動き噪くをからせし事
一喧嘩口論固く禁制すへし若其期に及時を同所の者早速
押留相計ふをし或を見遁し或ハ荷擔すを輩あるに於て
てハ本人同罪あるへし並面々屋敷喧嘩出來の時も同前
あるを表事

一博奕諸勝負並亂妨狼藉放火等一切ヲ禁絶しへし事
一本主より其任途を禁はる浪人或ハ出處知れざる輩寄留
せしををからし事故なく明證あるとあるてハ其頭たる
者に相届け差圖を受へし事
一他國他領へ行事を禁はる若故あるとあるてハ支配頭を以
て相窺ひ裁許を得て行へし事
一婚姻を聘財資裝の多少を論せし婿婦の人からを擇むを
し其儀式等分外の花美を用ゆへからせし事
附凡禍ハ閨門より起れり閨門の内正し表時ハ則百
事修さらんといふ事取し第一夫婦の別を立男女の
禮義を正し家内一切不法の事嚴に相戒むを表事
一繼嗣ハ其子孫相承るよと古今の常なり五拾以上の子取

とも大器を成熟する者なきは皆不學無術の罪なり故よ
子弟を教誨する道の學を第一とすへし凡女子の尊卑共
幼年より親の膝下にて專裁縫の事を教へいとまある
とおめては絃歌の類をも教ふる事元來其ならはしなる
近來其道了たるは専ら琴瑟三味線等遊逸の藝の習ひ
しめ裁縫の事の卑賤な業と心得手をもふれざる様とな
り行候畢竟は此風俗の相衰へ奢靡乃弊へ甚ぬ其道にあ
らざる事なり以後は家中乃面々大小一様に其趣を相心
得を委事

一騎旅往來の時薙刀大鳥毛槍ハ家老職家老脇持すへし其
以下はふれを許さば家老職ハ大鳥毛共ニ槍六本家老脇
ハ大鳥毛共ニ五本家老脇並ハ槍五本惣奉行職ハ槍四本

千石以上並番頭ハ槍三本物頭並五百石以上ハ槍二本よ
て是を許し其以下ハ槍一本に限るへき事

附惣奉行職他國往來の時故ありて家老脇の代に相
勤る時ハ大鳥毛を許しを一人職品とより番頭格
の勤る准はる時ハ槍三本を許しを一人其外無足中小
性に至るまで他國道中まで槍持はる事人々其心得
次第あるへき事

一平日城下諸士槍持せ候事本より其道形此とも小身了て
其力に及かたき輩有り假し法格を立年始ハ諸頭並三百
石以上の平組迄持はへし五節句ハ諸頭に限るを惣し
て頭役あるもの平生槍持せ候事勝手次第あるへき事
附二の丸の内へ槍薙刀持せ入るからは但丸の内了

屋敷ある者の槍薙刀ふせせ出入はへ惣して惣
郭の外槍持せ候事諸頭平組に限らず其意を任はへ
き事

一乗馬備へ繫へき輩諸上納過分多乗馬繫をかたきお
あてり其趣相斷裁許を受へり或は諸上納多く有とも其
餘自分乃所入四百石を踰ぬるおあてり其斷相許せり
る事

一長柄乃傘本丸乃内へり家老職計り是を許はる一二丸の
外は物頭以上並嫡子其外平組三百石以上の者は是を許は
然共若黨召連もる輩の遠慮あるへり小性組醫師の輩の
用事と對し制外あるへき事

附杖を用事五十以上よりおれを許はる一五十以下

の輩の職祿よらす三の丸門内へ杖つくをからす
或は五十以下たりとも疾痛ある輩の裁許を受て用
をき事

一城下往來乗物の事用人以上の年齢をかゝらば是を用
をり其以下は五十以上或は醫師の輩是を許は疾痛ある
輩は其支配頭へ相違して用へり村野在々至ては職務
年齢のまひなくおれを用へり下乗の事家老職は本丸
の外瓦坂の上を限り家老脇の瓦坂太波矢倉の中間を限
り家老脇並は太波矢倉の下を限り其外は二の丸乃門外
を限るをり醫師は太波矢倉の下を限る事是制外なり下
馬は三の丸門外を限りとすへき事

附家中妻子乗物に事用人以上並五百石以上乃妻子

久留米小史卷八
え是を許はといへども隘り之用ゆへから其以下
ハ婚儀年始の類重き禮有とあめてハ用ゆへ平日
故飛くして用ゆへから惣して職務ある其身ハ若
黨下人等まて省略せしめ却て妻子乃他行るハ乗物
若黨下女品々無益乃人數を相増召連候段粗相聞へ
甚不相應乃至其理なき事なり自今以後過分に妻子
装束を繕ふ乃類固く禁止はへき事

一奉公願の事番頭以上の次男ハ馬廻竹乃間以上の組三男
より以上の中小性を願ふへ諸頭の嫡子を若願ふ事あ
らハ馬廻竹の間以上の平組二男三男ハ中小性組夫より
以下の徒士組たふへ若平組乃嫡子を願ふ事あらハ馬
廻竹乃間以上の平組次男ハ中小性組三男より以下の徒

士組たるへ中小性の嫡子次男ハ徒組を願む徒組乃嫡
子ハ徒組願ふへ惣して父祖功業他了殊に又ハ其身器
量あるとあめてを制外の拔擢を蒙るへ醫師の子家督
相續定まらんといへとも自今以後上役の者をいふと及
ず諸醫は異るへ惣醫者の輩ハ醫術學業の優劣と隨む
其沙汰有を或を其子醫術未熟より共學業人よりくも
るうあめてを相續安堵乃沙汰及へき事

一名代願の事愚陋或ハ疾痛或ハ懶惰よして職務相勤らハ
無益の祿を費し候輩ハ一族相續を遂げ名代乃願を立を
し其餘ハ七十以上より名代乃願を許はへ縦七十以上
ありとも其身壯健して勤仕なるを表体有うあめてハ許
せと家督相續ハいまた申付はといへとも名代申付る上

ハ其祿全く名代の者ヲ相渡し三百石より以上ハ十分一
の助力を受二百石以下を相應リ軽く受を前より初開
暇を好み名代を願む過分乃助力を受奢侈放縱を事を
或る自今其祿を裁制して私用ニ費し名代の者は貧窮
難儀ヲ及む勤仕なりかある輩まゝ相聞へ甚非道也仕形
了候以後は嚴ニ制禁あるへ違犯乃輩あるとおあるは
當時其沙汰了及はれども家督相續の節或は減地の沙汰
了も及へき事

附父母の養了孝子乃心限りなるといへども公事を
差置私用を第一とし過分ニ父母を奉はるは又其
儀なき事にて眞の孝とあらは其親子たる者の間何
共和順ならんや然は隱居の祖父母父母たる者宜此

旨を辨へ儉約を以安穩了餘年をくらゝ子孫の繁榮
を願ふを第一といへき事

一養子願の事五十以上の子取さも乃同姓の中を擇む養
子の願を立を同姓取く母方或は縁者或は異姓了て
も其人からを見立是を願ふへ五十以下乃者の許せ
といへども生質愚陋又は疾痛ありて其証顯然あること
あり是を許し或は大病平復なりかある様子にて養子
を願ふもの支配頭へ達し目附役乃者支配頭へ差加り
判形見届を惣して拾七歳以下の養子願の許さすとい
へとも父祖の功業甚大ひよ又は其いふ所有者ハ其姓名
を斷絶せざる事臨時乃恩裁よるを並五十以上の子
なき者兼て其願なく臨死乃養子願ハ相許さる事

附中小性以下病氣危急の時俄に養子を願ひ沙汰に及ぶ事

一病氣よて節句の禮式に出来る輩無役の頭役格以上の當番の奏者番へ相達し奏者番より用人まで申斷へし平頭の輩の支配頭へ相達し支配頭より奏者番へ相達し用人へ申斷へし事

附節句病氣よて出仕せしめざる輩ハ快復の時頭役ハ月番家老中へ相達しへし諸役諸番乃輩ハ快復の時出勤せしむるにより支配頭へ相断り及んば無役の平組も右乃通支配頭へ相断る事

一看病よて出勤断り事家内の父母兄弟姉妹妻子までハ支配頭へ相断り籠り保養せしむるへし祖父母伯叔父母外舅

外姑の類看病人なきたるおめてハ其段支配頭へ相達指圖を受る事

附諸番所當番乃者急病人出來り付仲間へ代番を頼遣し許諾乃返答有とおめてハ代乃來を待り用人中へ相断罷歸るへし相番ある輩ハ相番へ達し代を待り用人中へ相断罷歸る事

一陪臣の事家老家乃おきな馬乗格の者といへとも元來各位乃差別同一からざる事候へし直參の中小性徒組までりぬい候ても謙讓を專とし禮貌厚く書札對話等至迄重く敬を加ふる諸家の馬乗の尙以直參に對し禮敬を重し以下從僕末々至まで其主人よりもの無禮を戒禁しへし若違犯乃者お此有とおめてハ其主人越

度たるへ直參乃輩輕き扶持人等よ至まで陪臣從僕と對し其禮格を亂れおらざる事

附輕き扶持人並家中奴僕の輩町人農民を輕しむ横虚を加ふるの類又其主人の權威をかり狼藉不敬を働くの輩固く制禁れを奉事

一自分召使の者慮外と及び當坐よ差赦しおたく手討と及よおめて其意旨支配頭並人奉行へ相斷檢使を受裁許を待へし或は其身の邪惡をいくり下人の罪を嫁せしめんぬめ少々乃事を申なり手打し及候輩有よおめて越度たるをい惣して下人自分乃仕置一切停止せよ仕置と及へき事有よおめて支配頭へ相訴へ下知を受へし或は下人不届に付いせよ差遣し先々奉公相構よおめて

其意旨を書附人奉行へ相達へし人奉行より月切よ右の書付を惣奉行よ可差出事

一欠落者の穿鑿をとけ呼戻し裁判よ及へし他所より參候者の理非詮議の上或は留め或は返り事支配頭へ相達し裁斷を受へし並欠落乃者其身の罪のみよあらは他人の罪をも我身に引請其いとよけ成いた奉品よより是非よ及ては欠落する者もあはし一旦出奔の罪遁れいたしといへせよ前非を悔む立歸るに於てハ分明な詮議を遂る恩赦の沙汰に及を奉事

一火事の時を前々より定置所の面々役所或は其場所へ遅滞なく掛付を惣して無用な輩火事場へ掛出る事固く禁絶するべき事

一家中の輩男女子兄弟姉妹等手前より抱置家累多く窮迫し難儀に及勤士なりかぬく諸願差出し候輩甚不埒乃至候前々より男女乃子共を互に同僚中へ奉公させ相預け候事ハ其道よりらざる様ハ風俗敗り行出國禁止の上ハ是非了及ハハ手前より拘へ置段相聞へ候自今以後ハ相對を以同僚中へ預け奉公せしむを其後直より召出候時ハ其卑賤乃構ぬく職祿にて行ふを預け置る者も常の若黨同然より召使江戸往來等より召連少も其隔有へからん其後直より召出せしむに於てハ早速相改め敬を加へ同僚の格式を以相交るへし女子を預り置候内を下女同然に召使若同僚中へ婚禮に取組遣し候よりハ諸事相改め夫家の格式を以相交るを若其男女を養子に願候者も

其隔其憚あるをいらす事

附惣して婢妾乃類男女子設け或は其人から妻に成れぬき者ぬるよおめては支配頭へ相達し家老の輩へ相訴へ寺社奉行への家老中より申渡し人別帳面是を相改へき事

一弓鐵砲修練よかおつけ妄成殺生を好みて不埒事及む或ハ水稽古事よせ釣網を弄むて法令を犯ハの類制禁ぬるへき事

一家中末々に至迄奢侈を除け諸事儉約を專とし他人乃嘲をも顧みん費を省くを第一とすへし或ハ面向儉約を示して公務を省き家内のくらし等の奢侈を好みて過分の費多く勤士乃諸願差出し輩よくあり甚非義の至りぬり

或ハ嫡子ありとも勤仕形表内ハ衣服飲食等諸事ニ至迄
隨分軽く相養むて勤仕の其身ニ准ハハから次男三男
に至てハ諸事ヲ付尙以其心得有へハ召使乃下女童等ハ
分限よ初是を省き面向公用の奴僕等ハ減少な表様ヲ召
抱む事

附惣して町人百姓乃類ハ家來帳面ニ是を載ル事彌
固く制禁す事

一家中の輩自分の知行を號し或ハ少々乃由緒を申立町人
或ハ農家へ罷越不相應の宴饗をいふ候事以後ハ固
く禁絶す事縦彼者をもより相招をいふ共許容有む
らハ或ハ在々乃親類縁者方へ行き一宿又ハ數日逗留の
上逸遊放蕩の仕形ニあり以後ハ用事ニ付一宿せしむ

るおめてハ頭分ハ仲間へ相達し平組ハ支配頭へ相達
し月切之家老中へ相達ハハ或ハ知行所の農民をか
らハ押す金銀乃才覺等申付ル類一切嚴禁ハ表事
一家中在町ニ至まで俗家へ亥ニ出家を招き歸依傳法ヲ事
よせ閨室の内をも憚からハ晝夜往來して逸遊宴樂法を
踰へ倫理を亂ハハの類ニあり凡沙門の身といへとも情
慾の念全く離れかたハ大小遠近共ニ深く是を慎み嚴ニ
制禁す事

一第宅普請乃事表通乃見分を專一せし立關座敷等を次々
し勝手内証向ニ至てハ至極乃儉約を用む費を省へハ材
木板疊襖張付等ハ中品以下を用む縦當分費有とも多年
相支ふへき品又ハ當時一通して再作を相期ル品此兩

様を辨へ用ゆへき事

附城惣堀より屋敷より裏道付をからせし事

一衣服を絹類木綿等差別なく勝手次第に用ゆへ絹服用有て綿服用なき者ハ新に綿服用を裁製するに及ては有合ある絹服用を用ゆを絹服用ありて綿服用なき者ハ有合たる綿服用を用ゆへ故なくして新に絹服用を裁製する事を許さば惣して職祿に應せざる織物等の美麗を用へらば浣衣鹿服用をえらばからば着用せしむるを勤仕の其身を浣衣鹿服用を用候て妻子家累の縫薄織物等美麗の衣服を着候に甚其理なれ事なり自今以後妻子の衣服ハ尙以花麗を制禁はへ違犯の輩あるを認めてハ再を詮議を遂るに及ては越度より申付をせし事

附輕き扶持人並陪臣家僕の輩絹服用一切停止はへ江戸詰り時又ハ其所爲ある者ハ制外あるべき事

一飲食の事交際宴饗の時一汁一菜二菜又ハ一汁三菜なると器數乃法を定むといへ共一番の數品を盛り貯へ其定法に准へ置時の畢竟立法の本旨にあらばして費を省よ益あり自今以後の器數よからば人々の分限有無をえかり嘉肴珍味の盛膳を禁一切儉約を本せし庖人等相招く事を制止は或ハ朋輩中の交會り小祿乃者多賤の者ハ料理等相劣しを争む競ふの輩ハ其分限を忘れぬ無益の事共取り嚴り相戒むべき事

附賀祝乃宴饗ハ繼目婚禮より重をなし其儀式等節儉を用ゑし家老職並家老脇にてやしを用む番頭格

ハ素謡を用む其以下の歌舞家業乃者を相招くへハ
らハ繼目ハ家督乃禮相濟候日一家他人共ニ一日に
限テ宴饗ハヘイ婚禮ハ婿外舅の出會嫁娶の祝儀一
日ニ宴饗セシムルニ繼目婚禮共ニ前後乃宴饗を許
スル一日ニ取行む一切の盛美を禁ルヘイ惣一音
信贈答乃類互ニ輕ク取行ふヘキ事

右之趣家中乃面々一々謹テ守リ輕キ扶持人末々至迄其
支配あるも乃屹度申合相辨ふヘイ若シ違犯の輩有ヨハ
テハ嚴リ其法ニ處ルモキ者也

正徳三年癸巳八月日

御家老中添書

一御昇奉行御普請奉行御作事奉行破損奉行右之面々並杖

突等御普請場へ被罷出候刻ハ杖用可被申候平日の出仕
其外ハ御事目之通リ可被相心得候

一御家中妻子乗物乃事分限ニ應御掟被仰出候就夫何モ難
相分儀有之様ヲ相聞申候全体爲差事無之ニ妻子出ある
キ候事無益之様ヲモ被爲 思召被 仰出候殊更老人病
者等ハ年始婚禮重死事ハ御免の事ハ候間罷出候節ハ
乗物相用候得者差支可申様無之候歩行モ不自由成老女
右様の病身の妻子猶又無用の事ハヘク候得者是以差
支可申様無之候萬一父母危急乃病氣ニテ罷越候節ハ町
駕籠成共才覺申候得ハ事濟可申事ヲ候

一五拾歳以下養子願ハ不被 仰付候乍然表向不相願病氣
等支之末々養子ハ可相願ト存約諾致置度或ハ手前へ

引取置其人品心立等見立其上より養子願申上度被存族
有之候ハ、支配頭へ内意口狀書差出支配頭よりハ我等
共月番へ内意被相尋其上より引取置可被申候右之輩於
御當地急病の節ハ御事目之通支配中へ御目付差添願出
判形見届表立月番へ可被差出候兼て内意被申聞引取被
置候養子あり共改候て願可被申候或ハ右之輩國越へ御
使御在城中江戸勤番被相越候面々先方より大病養生不
相叶死去の節を右我等共月番へ内意被申聞置候養子改
候ての類無之ても家督乃儀可被及 御沙汰候此儀も連
々五十歳以下にても養子を願む被 仰付候得者引取其
養父母之心底より寄右養子と對し奴僕等乃様と召使又ハ
諸色難儀致させ往々御用にも可相立人品の養子と困窮

病身可成一生不令落着様と其養父母より非道乃致方
之族有之付其不届の事に被 思召候條年齢を被相定被
抑出候間其分可被相心得候

一御家中之諸士家累之男女子兄弟姉妹同僚中へ相預け候
刻双方よりの願書付不及被差出候互りに相對可被申合
候或ハ娘姉妹ハ同僚中より預り置候上妻りも相定度被存
りおめてハ常の下女上の人高帳面り記候をハ違候間右
主人より計願書付可被差出候被 仰付候上一家縁類如
御法出會等可被致候

一衣服之御制禁全體微細り彼是可被 仰付様無之候唯今
迄御家中之覺悟惡候故被 仰出事候間此一事を以相考
候得者如何様りも自分了簡り可有之事り候輕き御扶持

人陪臣奴僕之類分限不相應の衣裳を着奢ひましく相見
御直參陪臣其隔なく猥々間敷被爲聞召候事故改被 仰
出候事候間其心得を以申付候得者差支可申様無之候羽
織袴或ハ帶袖口等是又絹類を用候ても右之奥意了簡之
上者不苦事候下女等之儀も帶抱帶等ハ純子縹珍紗綾縮
緬綸子此類織物等之帶を致し抱帶等も用む其主人之
身體不相應下女を取繕候事故御制禁被 仰出候然上
ハ相應下女ても其奉公乃品方絹帶袖口等ハ相用
候ても不苦唐機渡物等之地合結構成染物等相用候事ハ
御事目之旨を相考省候様可有之候下女之品も寄決して絹
類不相用布木綿一色用候様可被申付候

巳八月

寺社掟目

一天下一統御制條乃趣謹み守り違越有をからせし事
一切死丹宗門舊例に隨む詳々相改宗旨証文等精しく念を
入をし若疑し犯者あるまおめてハ嚴々詮議を極め本寺
へ相達し寺社奉行の裁決を受を奉事

附惣して新説新法を唱へ人數を相聚め黨與を相構
ふの類嚴々禁絶しをさ事

一社家ハ神道の奥儀を精しく極め沙門ハ佛道の意味を識
得せしめ道德學行顯密修驗兩部維一の品を明し各其
道了心を盡し怠慢有へからせし事

附傳法附屬を申かため大悟經意の常用を混亂し拘
律無法展轉しる輩嚴々禁止しをさ事

一勅衣の長老僧正紫衣を上級と一院家單寮塔頭色衣上人僧都等を其次を以て黒衣の沙門の其年臘の次第を以定ま是古今通義取り領内の沙門此旨を辨へ諸宗一致の禮を亂さへからざる事

附律黃檗の宗派の僧綱を以てのらば歸依乃輕重道徳修行の級を以甲乙を定むる事

一勸請開基乃古法を以寺社乃諸事を執行ふへ一私意を以祖師の本意を失む古法を亂し犯れはの輩は是神佛の道を誤り失乃甚しきもの也以後は此趣を辨へ損益にへき類の相窺む下知を受へ一並祭禮法事等古例を守り節儉を用ひ斷絶なく執行ふへ一新り興行はる事を許さば或ハ古例あり共久しく廢棄し相行ひかぬ後事ハ寺社奉行へ

相訴へ裁許を受ゆる私了相定むる事

一本末の別を正し末寺の常了本寺の差圖を受へ一爭論出來の時ハ本寺より裁斷しへ一本寺の裁斷成ひさるはめてハ寺社奉行へ相達し下知を受へ一寺院社家の爭論を双方寺社奉行へ相達しへき事

附違言爭論ハ流俗の人ぬも是をいや一も況社家沙門の輩第一神佛の道了違ひ甚其理なき事也各此意旨を辨ふへき事

一僧徒宗旨乃論又ハ神佛乃道を論し互了相争む噪く輩ハ是非を論せず双方同罪たふゆる並新奇怪誕の事を取てや一愚俗を眩惑し貨財を貪り聚る乃類一切に嚴禁すへ後事

附社家沙門の輩貨財を貪り博奕諸勝負を好ん或ハ放逸妄縦を罷ん乃類尤不道乃至了候嚴之戒禁ハ在
後事

一 寺社地新規乃勸請私ニ經營ル事許され故あるまお
めてハ其旨寺社奉行へ相達し畫圖を以相願ふへハ或ハ
寺社地を貪りひろけ或ハ他乃地を借り或ハ買求め小社
小菴を取立社名院號新菴乃號を唱へ置後來紛ハしき品
儘あり是固く停止す應し若其故あるにおめてハ寺社奉
行へ相達し下知を受應後事

附一寺の寺號を以所々了同號乃寺院を構へ檀越分
ち置乃類固く停止せしや或を別墅墓所等ハ制外た
るべき事

一 神社佛閣乃修葺灑掃等怠慢有へから並常々失火乃用
心第一あるべき事

一 寺社境内の山林竹木妄了伐取事を許され造營修理の時
ハ寺社奉行へ相斷其入用了應して伐取へき事

一 僧徒妄了俗家へ交會ル事を許され縦親類縁者ありと
も寺内へ女人を親しみ通し或ハ宿せしむる類固く制禁
ハへハ或ハ俗家へ親し行房圍の内をも憚らハ晝夜出入
し宴饗遊逸の餘り終るハ戒律をも犯す乃事に及む其本
意を失ふ輩まあり以後ハ男女の僧俗妄ニ交會ル事
嚴ニ戒禁ハへハ違犯の輩有におめてハ本寺觸頭共ニ越
度たるべき事

附俗人參候共魚鳥の類一切寺門の内へ入應からハ

並惣して琴瑟三味線群飲亂舞等堅く制禁はる事
一 寺社とも浪人或の不審なる者抱へ置るからす出所證
據明ぬるおぬる寺社奉行へ相斷差圖を受へき事

附罪人隠置へからざる事

一 寺社をも衣服飲食居所器用等節儉を専らし華麗を
用へからざる事

右之條々謹み相守るへ若違犯の輩あるにおぬる屹度
嚴科之處はへ死者也

正徳四年午二月日

在々掟

一 公義より仰出せ給候 御制法の趣堅く相守るを委事
一切死丹宗門改候儀毎年の通相守轉類族等念を入相改へ

き事

附新異の法を唱へ人を勸め黨を催はる類嚴く制禁
はへ死者

一家内和睦しく一族朋友隣里相親み互う力を合せ夫耕は
時ハ婦を飼を送り夫獲る時ハ婦ハお給を收め調へ諸事
了此心を用む各農業耕作精を入第一五穀の種の善悪
を擇む水旱乃備へを怠らば水多き時ハお給をさくり少
き時ハ是を増し深く耕し土を和らけ是を植る時節を
違へば草をとるに幾度も拔養平らけ土地乃肥瘠をこ
りてお給を養む秋來獲取にそのよき時分を考へ四時乃
時を失はば晝夜油斷ぬく心を用む力を盡はし時ハ五穀成
熟し年豊事足り困窮の患有事ぬし或ハ遊樂了耽り或

ハ分限不相應の事を説む農業ノ心を用むハ田畠荒廢せしめ耕耘獲の時節を失む年貢の遲々有らばおめてハ其者ハ勿論の事其掛の大庄屋まで越度ぬるを表事

一博奕諸勝負並亂妨狼藉放火喧嘩口論殺傷盜賊一切非義無道の類固く禁絶すへハ荷擔人同様有らばおめてハ本人同罪たるへき事

附百姓中徒黨を相催ハ事一切制禁たるをハ並故取くして民家へ妄り出家山伏等親み入るをハ惣一何事よりならん不埒不届成もの有らばおめてハ其懸乃大庄屋まで越度ぬるへき事

一大庄屋の外ハ惣百姓刀脇指をもち事禁止ハハ其外役義あるもの或ハ故ある者ハ郡奉行ハ達ハ脇指許ハる

並許札なき者鉄砲打をからせし事

附惣して士扶持人ハ對ハ慮外取る体仕へからんたをへ旅人あり共鎗を持せ候輩ハ禮敬をなはへき事

一大法の通久留米廻り壹里より内馬ノ乗をらば若相背ものあらハ過料を以て松苗三百本出せしへハ但女ハ制外の事

一百姓乃男女共ニ乗物固く停止すへハ縦家中士乃女あり共百姓へ縁組せしむるをハ衣類等百姓乃格を用む久留米より往來し乗物を制禁すハ表事

附惣して百姓中家中乃家來帳面する者制禁たるをき事

一惣百姓衣服乃事絹類一切停止しへし大庄屋並五拾貫目以上の分限五百石以上の田地相かゝゆれ者の妻子ハ郡奉行へ相訴へて帶襟袖口等絹類を用ひ其以下ハ用へがらひ下女よ至てハ猶以嚴了制禁よるへき事

一家作の事分限に過ぬる結構を用へがらひ前々より建置所の宅地の坪敷を新了増しへがらす若故ありて新了増し作る事あらハ大庄屋へ相達をい並嫡子の外兄弟諸子一屋敷の内よ別宅を立差置事を許さす若故有了於てハ郡奉行へ相訴へ差圖を受ぬ事

附他所往還筋の町並屋作ハ相應と見分よろしくしへし其屋作の程より惠賞有へき事

一山林竹木伐取をいらい立山請山毎年精を出し植立へし

大法の通下刈枝葉ハ其者よ與ふへし並百姓所持の山林あり共猥了伐取へがらひをい屋作入用の節をその員敷を山奉行へ相斷差圖を受ぬ伐取をい惣して耕作ならさる荒地野山等家中並其村乃者見立候ハ郡奉行山奉行へ相達し田畠よならさる吟味を遂け其廣狹相改め精を出し植立へし枝葉等ハ其植立候ものへ與ふへし本木ハ隨分植立相養ふへき事

一參勤往來乃時豊前大里迄乃人馬或ハ用事の荷物運送並江戸供使等よ相越輩へ送迎の人馬賃銀員數相定まらるる故よ給人の心次第よて多少品有其上旅役よけき輩乃知行百姓ハ年々差出し旅役なき輩乃百姓ハ年々差出事なく甲乙有よより去春相改め申渡候通藏入給前共よ高

百石と銀拾五匁つゝ差出し郡奉行手前より夫々相渡す
へん事

一 男女よらひ他國他領へ行事制禁あるへ故有て行事
所らハ郡奉行へ相訴へ裁許を受へし並他國より參候欠
落者ハ理非承届かぬへし領内より他國へ出奔乃者ハ
早速呼戻し郡奉行乃裁斷を受を事

一 諸品納も乃類古來より郡奉行相定る員數相違なく上
納すへし何品よらひ大庄屋小庄屋より定乃外過分乃
員數を申かけぬおゐるハ隠さし郡奉行へ相訴へき事
附家中の買調も乃ハ相對を以代銀受取を若代銀
相滞りおゐてハ郡奉行へ訴へき事

一 他國より來り村中よ住居願候者あらハ郡奉行の裁斷を

受へし浪人呼置候ハ出所等詮議致し郡奉行へ斷り郡代
へ訴へ證人を取をし下として私よ召置候ハ越度たる
へし並出所忘れハ胡亂なる者あるとおゐてハ早速郡奉
行へ相斷をし不審なる旅人之宿をかぬをからハ罪人等
隠し置をからさる事

一 田畑をあせく強付候事連々幅廣く往來の道よも成候様
り相見へ無用の費り候以來ハく強あせの幅五寸り限る
へし或ハ土地の高卑或ハ其品より寸尺を増る共田畠
の費なきやうに相心得へ事

附田のあせく強の上雜穀等作るへし年貢等相か
らさる事

一 隣國往還の道幅ハ前々より相定る通るをし其外ハ一

百石と銀拾五匁つゝ、差出し郡奉行手前より夫々相渡すへん事

一 男女よよらひ他國他領へ行事制禁あるへい故有て行事
おらハ郡奉行へ相訴へ裁許を受へい並他國より參候欠
落者ハ理非承届かぬへい領内より他國へ出奔乃者ハ
早速呼戻し郡奉行乃裁斷を受ぬ事

一 諸品納も乃、類古來より郡奉行相定る員數相違なく上
納すへい何品よよらひ大庄屋小庄屋より定乃外過分乃
員數を申かけぬよおぬハ隠さひ郡奉行へ相訴へき事
附家中の買調も乃ハ相對を以代銀受取ぬし若代銀
相滞るおぬてハ郡奉行へ訴へき事

一 他國より來り村中ニ住居願候者あらハ郡奉行の裁斷を

受へい浪人呼置候ハ出所等詮議致し郡奉行へ斷り郡代
へ訴へ證人を取ぬし下として私よ召置候ハ、越度たる
へい並出所ニ純ハ胡亂ぬ者あるこおぬてハ早速郡奉
行へ相斷ぬし不審ぬる旅人ニ宿をかひぬからハ罪人等
隠し置ぬからさる事

一 田畑よあせくぬ付候事連々幅廣く往來の道よも成候様
す相見へ無用の費了候以來ハくぬあせの幅五寸了限る
へい或ハ土地の高卑或ハ其品了より寸尺を増る共田畠
の費なきやうに相心得へ事

附田のぬせくぬの上雜穀等作るへい年貢等相か
らさる事

一 隣國往還の道幅ハ前々より相定ぬ通ぬぬし其外ハ一

切幅三尺ヲ限るをし往還筋道をぬれあき所ハ雜穀其外野菜類を作るへし沼地等ハ運くこへ等水地ニ生れ野菜の類を作へき事

一大庄屋小庄屋自分として水帳面相改候儀固く制禁するへし郡奉行へ相達し下知を受へし並田畠永代賣渡事停止すへし若故ありて賣渡におゐるハ郡奉行へ相断差圖を受えき事

一百姓纒の田地を所持せしめ男子兄弟等ヲ分け遣ハ事其子を憐やと似て實ハ却て是を傷ふことを取リ漸一町ニ及さる田地を分ち遣ハ家督産業薄くなり本末双方共ニ困窮一年貢未進の沙汰ニ及候の類甚其理な表事なり向後制禁たるへし若故ありて嫡子の外乃子孫に田地分ち

憚る事あらは其所乃庄屋へ申聞し大庄屋へ達し郡奉行へ訴へ差圖を受えき事

一田地所持せしめハ差ぬる産業もなくいたつらう世を渡り候無益の遊民男女拾四歳より六拾歳までハ其所の庄屋より掛初の大庄屋へ書出し久留米人奉行中へ相訴へ家中或ハ町方へ奉公ニ差出れへし近來ハ田地も所持せしめせぬ者奉公をやめ少の商賣をいし立妻子を設け渡世いたし候事其謂れき事なり村々屹度相改め奉公ヲ出れをし向後郡奉行詮議を遂げ前々より賣買仕來候者計へ商札相渡し其外猥ニ相渡れをからん但奉公ニ出候も乃妻子俄ニ片付難き願え許さる或て奉公ニ出し或ハ其親類縁者方へ預け置をし並拾三歳以下六拾歳以上の者

親類縁者のふよれを養者なく其身不具或も病身よて困窮餓餓乃難儀よ及候者ハ明之詮儀を遂げ米穀を與へ恩赦乃沙汰之及を養事

附病身あり共其証顯然たらざるも此を相許さる事

一在々耕作乃ぬえ拘置下部身の代銀乃事暇取候上過分乃銀子を滞せ剩へ出入とも及候族もまゝ有非道の仕形之候向後暇を取候上ハ銀子滞ぬく屹度返辨せしむへし若相滞之おめて郡奉行之相訴へき事

一郡中田地乃開て定乃通三年年貢を許し四年目より初上納せしむへし並野開て所見立候ハ、又近村の者にひらかぬをし人数多く入候ハ、惣郡より出入を用ゆへし惣一

て奉行中より申付候開ハ其年より惣成上納仕をき事

一大庄屋庄屋之至迄百姓乃出入等諸事之付少も親疎の隔ぬく依怙最負乃沙汰有へからされ事

附下役代者よ打任ハへからさる事

一年貢上納の邪曲或ハ遲滞或ハ隠田の私慾を構へ候族ハ其所の庄屋横目殿ヲ相戒せへし承引せよふとおめてハ大庄屋へ相達へし其上るも承引せざるおめてハ郡奉行へ申出裁斷を受へし若右の族隠し置外より相顯るハ了おめてハ其所の庄屋横目本人同罪たるへし大庄屋を越度あるへき事

附村々了おめて庄屋百姓の内邪惡を構へ却て正直なる者を感し諸上納等をも態と滞らせ大庄屋郡奉

行の申渡旨をを亂轉する類並地頭の權威をかり諸
上納の催促人をも輕し蔑とし上納遲滯了及候類是
等の族甚不屈の至了候向後屹度嚴禁あるを事
一檢見乃事往古より夏秋の作物をもと春法を以年貢相定
承應三午乃年より一統了土免は相極め大庄屋以下の農
民正直として非法有間敷段證文を差出し置候所は近年段
々邪曲を企て富める者の彌豐は貧者ハ増々乏しく成行
候向後相改め上代乃通り春法檢見を定め其三分一を收
納せしめ三分二を作得とし立毛乃善惡によりて年貢の
差別正直は相定せべき事

附村々庄屋横目下見春法はめし乃儀邪慾を構へ置
相顯るゝはあめて其村中乃田地一統は切増猶其

村庄屋横目へ過料出さるる事

一家中の面々所持の下屋敷並在宅浪人中の年貢上納等前
々より相定は通村並同然たるべき事
一年貢皆納なき内ハ諸商人村々へ出入せしむへからん並
皆納なき内ハ諸勸進等村々へ出入せしむへからん事
一年貢皆納なき内ハ庄屋百姓自分相對の借銀米等固く返
濟すへらざる事

一百姓爭論出入有時ハ郡奉行の裁斷を受へし若奉行職依
怙最負又ハ差出し置候諸願數年相滯り裁決ぬく末々難
儀せしむるはあめてハ發端より乃事委細し書付目付役
迄差出しへし或ハ郡奉行へ訴へし諸願書付を目付役
乃者受取をからん郡奉行所へ訴申を事

右之條々謹と相守るを若違犯乃輩有るおめてハ屹度嚴科了處すへきも乃也

正徳四年午二月日

町中掟

一公義 御法度の趣固く相守違犯ハへからさる事
一切死丹宗門毎年の通精々相改むへき事
一家内相睦しく一族朋双相親み人々家業了精を出し奢をやめ費を省くを第一せし衣服食物諸道具等至まて随分儉約を用む音信饗應葬禮佛事等輕く取行へし或を其工商乃業了心を用むハ逸遊宴樂を好み不相應の奢侈を極め女子杯了琴瑟三味線等の遊藝のハ教へ織縫乃事を疎畧せしむる類固く制禁たふを以事

附工商とも朝早く市店をむらへし並町役等怠るへからん諸上納等遲滯有へからさる事

一町人衣服ハ綿服を用へし町別當或ハ他國商賣乃者或ハ其とけある者或ハ五拾貫目以上の分限たる者此類ハ町奉行へ相達し差圖を受て絹服を用へし其外ハ固く制禁ハへし妻子衣服も亦此了准ハへし惣して唐織渡物等結構乃地合華麗の染物停止せしむへき事

一町人屋作を表通見分乃宜を第一とし勝手内証向し至るハ至極の儉約を用む費を省けて輕營せしむを龜屋町兩替町片原町本町十町三本松町原古賀町右乃分ハ表通往還の町あるよりて別して見分を第一としへし或ハ立派の造作修覆せしむるものハ其屋作の優劣に隨ひ軒

口の多少を以賞惠を與を事

一 盜賊火付非義不道狼藉乃類各嚴科を行ふへし或ハ其宿
せしむるもの或ハ盜物ハいふと及せず不審なる物預り
置候類者ハ早速其懸の別當へ訴へし隠置外より相顯る
るよおめてハ本人同罪たるへし惣して僉議者或ハ不審
なる者ヲ其所に留置町奉行へ相訴へし若見遁し取遁し
よおめてハ屹度曲事あるへき事

一 喧嘩口論固く制禁すへし奉公人ハいふ及てハ或ハ他
國者ありとも町内にて喧嘩口論及時を町の者共早速
懸付双方申取よせへし理非相分かぬをよおめてハ町奉
行へ訴へ下知を受へし往還道路も同然あるを若刃傷
に及時ハ町中乃者取圍み双方押へ置町奉行へ訴へ下知

を受をき事

附平日町中夜番物者油断なく相守るをし尤廻番の
者相定る刻限の外不時に相廻り不審なるを乃怪異
乃事よ心をを用む吟味を遂げ怠慢あるへからざる事
一 博奕諸勝負固く制禁あるへし其宿いたし候者も同罪も
あるを見及ひ聞及ふよおめてハ早速町別當へ相訴ふへ
し若隠置外より相顯るよおめてハ其所乃向三軒兩隣
同罪あるへき事

一 遊女のおひ置事固く制禁すへし或は表向遊女と相定め
る紛敷類のおひ置或ハ奉公人下女等不義の中宿いぬ
類あるよおめてハ其町の別當横目迄越度あるをし或ハ
他國商人乃旅宿等其外商賣乃品よより遊女を相定め

於下女差置候事ハ其掛の別當へ相訴へ差圖を得へき事
一家業罷き遊民出所ニ此ハ不審罷るもの有ハ早速町奉行
へ相斷へし隠置外より相顯るゝおめてハ町別當役人
越度たふを表事

一家中の諸士と對し慮外ハをからハ町中往來の時ハ道を
譲り腰をかゝめ通るへし旅人あり共鎗持せ候輩ハ右
同然たるへし並輕き扶持人陪臣從僕ニ對しても無禮を
戒めへた事

附市店におめて慮外なる体又ハみせ先了て煙草の
賣へからさる事

一男女ともよ妄ニ他國他領へ行事を禁ハ用事あるに於ハ
町奉行へ相斷裁決を受けて行へき事

一欠落者ハ詮議を極め尋出れへし彌行先相分らさるにお
めてハ其様子委細町別當より町奉行へ相訴へし並他所
より參候者も町奉行の裁斷を受へき事

一町人爭論出入有時ハ町奉行の裁斷を受へし若奉行職依
怙負又ハ差出置候諸願數年相滞ハ裁決取く末々難義
せしむるにおめてハ發端より委細ヲ書付目付役迄差出
れをへし或ハ町奉行へ相訴へさる諸願書付ハ目付役の者
受取へからハ町奉行所へ訴へ申出へ表事

一旅人慥なる者ハ相留めへし明証なく不審なるも乃人品
不相應の様子なる者ハ一切暫時の宿も制禁あるへし他
國より參候浪人相留むをからハ故有におめてハ町別當
へ相達し町奉行の證文を以差置へし並罪人を隠置をい

らさる事

一旅人往來の道筋人馬等相滞らるへからひ並待馬九拾貳疋の分限絶なき様了申付へし馬入用の刻ハ町奉行の手形を取馬さしよ申付をし尤駄賃の儀御定の通相守るをさ事

一諸町人の家屋敷家中の諸士へ賣買乃事往古の通猶更禁制ひへき事

附惣して町人手前へ家中乃面々相招き饗應飲宴禁止たるへ委事

一火事乃時ハ町別當其掛乃者共召連早速火本と掛付防ぎ働くへし失火有よおめてハ其身ハいふ了及はは他人よて難溢了及ひ候へハ別々平日火の用心相慎せへ死事

一一切商賣物直段乃高下ハ相場次第あるへし不相應よ高直なも事或ハおめりぬさうり等固く禁制ひへき事
右之條々謹て相守へしよ違犯の輩はよおめてハ屹度嚴科よ處ひへき者也

正徳四年午二月日

久留米小史卷ノ九終

久留米小史卷之十

戸田 幹編纂
船曳 鐵門校正

第三

法令ノ二

弘化元年甲辰七月二十三日江戸赤羽邸小書院へ

義源公出御ニテ番頭以下徒士並迄内外諸士打込ニ列居

レテ左ノ言辭ヲ公ヨリ傳ヘテレタリ

今度國家萬民乃爲メ大儉約申付書付相渡間熟覽致セ親筆
書左乃通り

勝手方連々不如意乃處追々及困窮了平常暮方不相立非常
異變乃手當了も不行届先々如何可相成セ甚以心遣當惑了

付國家万民乃爲よ大儉約を取行ひ上下安氣よ至る様不相成候てえ決して不相濟儀と付我等手許乃義を先は非常了嚴畧相立可申を存決居候然處頃日追々國許より申越候趣よハ蘭船渡來乃儀長崎奉行より申渡候趣よ付隣國人數出張等乃儀聞合國許より人數差出方取調同所乃摸樣よ應一可致出張旨尤異國船乃儀こ未耽と不相分候得共此後如何体大造了可致哉難計候處只今勝手方乃摸樣よても其入用如何致候て可相整哉實よ國家心遣乃時節了候右よ付てこ當表代處非常乃取計を以國許より大坂廻米等差支登せ金如何程遅々よ及候ても不差支様凌き相立候外無之候夫故我等唯今江戸了居候て陣中乃心得を以て手元乃儀萬端事を省き嚴略乃取計相立 公邊勤向乃不得止事並家中扶持

乃儀え格別其外精々可成丈け減少乃儀ハ役々我等存意を能致會得精力十分を相盡し可取計候且家中末々迄右乃覺悟を以可相凌候我等家督乃初了當り万一行届乃儀有之え 祖宗へ奉對誠に以恐懼乃至了候此旨屹度申付候尤も大儉約乃儀ハ猶追々可申付候也

七月二十七日臺所平常ノ食膳相止セラレ部屋仕立ニ變セラレタリ

今般一統へ被仰渡候御趣意乃通万端非常乃御凌被相立候了付表御臺所御平常御膳仕立全被相止 太守様 御前様上々様御一同於御部屋御殿内相辨候様被 仰付候御臺所乃儀ハ上使其外無餘儀御客様等乃節無差支迄乃御取計よ相成候御膳方受持不及出番惣廻し少人數よて罷出不締無

之様可取計旨被仰付候事

八月朔日長崎表異國船渡來ニ付江戸ヨリ公ノ近臣石
野陸三郎ヲ差越サレ國老中へ親筆書ヲ賜フ

今般異國船渡來乃儀ヨ付長崎奉行より達有之人數手當申
渡候節上下困窮乃中不行届乃儀も無之早速相整候趣承知
致候畢竟孰れも格別令出精候故を満足了存候士風武備乃
儀ハ國家乃要務ニ付追々深表存意も有之候條一統猶更氣
節相勵み決て不相馳様可心掛候此旨一統へ可申聞候以上

八月朔日

筑後

有馬播磨殿

有馬右近殿

八月晦日江戸ニ於テ勝手方改革ヲ發令セラレタリ

御勝手向御差支乃儀了付々ハ深被遊御心配此度御年限被
相定御大儉乃儀左乃通被 仰出候

一公邊御勤向 御代々様御法事御仕送等並御家中末々迄
御渡方其外非常の備了懸り候御入用ハ可成丈被相省御
身乃廻乃儀ハ猶更御省被遊候事

一御平日御召物一切御綿服被爲 召御上下御肩衣御袴等
麻布木綿乃外不被爲召候事

一御前様御平日御綿服被爲召御髮飾乃儀ハ監甲銀等御用
不被遊質素乃品御用被遊候事

但女中衣服髮飾乃儀ハ勿論右乃通了て尙更粗品相用
候

一奥向女中二十四人乃處以來十五人ニ被相定尤御姫様方

御附女中ハ是迄乃人數ヲ被相立置候事

一御臺所被相止御奥御末ヲ御膳仕立差上候事

一御殿中御普請等格別乃破損ヲて風雨防兼候處ニ格別其外ハ一切被相止候尤御居間並御奥等表ヲ不拘所ハ猶更
了候事

一御屋敷御繕乃儀モ外御圍損候所ハ格別其外ハ一切被相
止候事

一三日御祝御膳被相止五節句モ御禮被爲受候迄ヲて御祝
乃品被相止候事

一年中御規式乃儀年始ハ輕々御祝御膳御謠初ハ全被相止
十丁目御鏡餅御祝立猪御餅被遊御祝候迄ヨて其外ハ御
祝物等被相止候事

一御客様御招並爲御客御出乃儀御斷了相成候併無據御譯
有之節ハ別段乃事

一御近親様方御吉凶乃節ハ格別其外ハ御音物御贈答御斷
了相成候事

一御出馬乃節御供廻り並御道具等見苦分ハ少モ御構無之
候事

但武用了掛候品ハ御省無之候

右之通被仰出候了付一統其御改意奉承知萬一上之御振合
了於て右被仰出候御嚴畧乃御趣意ニ相觸候儀等及見分候
ハ、假令御身廻初乃儀モ初共少モ不差扣存分了可申出候
此旨御家中初末々迄無洩落急度可申渡候事

八月晦日江戸ニ於テ諸士一統へ大儉ヲ發令セラレタ

先月廿三日御直書を以被 仰出候通御勝手向御差支乃儀
 了付深く被遊御苦心此度御主法被相立御大儉被仰出候了
 付てハ一統乃儀も是迄乃風儀了拘り儉約乃實意不相立非
 常乃變も有之節ハ上乃御用も欠候ハ不及申平常其身も困
 窮了て暮居候段深く御心配被遊右風儀被相改一統勝手向
 取直上下安泰了至候様よを被思召大儉の儀別紙乃通被仰
 出候

一御大儉乃儀當表も當辰年より來申年迄御年限被相定是
 迄乃例了も不拘以後乃例よも不相成全別外に被相定候
 段被仰出候

一御家中乃面々末々迄上着一切綿服可相用候羽織も麻布

木綿之外相用間敷候帷子に縮類相禁候事

但拜領之品多り共御定之外一切不相成候

一上下龍紋絹被相止袴野袴踏込布木綿之外不相成候事

一慰斗目白張着用是迄之通了て別段取繕ニ不及候事

一御供之儀も慰斗目白張是迄之通其外に一切綿服可相用

事

一御役格よ肩衣相用候面々私用了て往來之節肩衣着用

よ不及候事

一火事羽織夏冬相兼可相用候夏火事羽織一切被相禁候事

一御家中末々迄妻女上着帶付共綿服可相用候髮飾盃甲銀

等被相禁候可成丈け鹿品可相用候事

一男女共七十歳以上乃者平日衣服勝手次第之事

一 武器類を格別乃儀に候得共是亦實用を専らとして少くも取飾候様乃儀不可致其外諸道具可相成丈鹿品可相用候假令他向へ拘候類よても無據筋乃外修覆無用乃事但妻女手道具等右に准し可成丈け鹿品可相用候一 飲食乃儀も可成丈け鹿品可相用候少くも榮耀之間敷儀致間敷候諸式日等ハ御年限中先ハ相止候を可相心得候事一 平常客相招酒宴等致候儀堅不相成候家督婚姻等重々吉事乃節ハ格別了候得共是亦右乃趣意相辨成丈け手輕よ致不及亂酒可致候事但着府出立乃節も同斷乃事一 凶事年忌之節打寄飲酒有之趣心得違乃事に候向後御嚴禁之事

一 殿中於詰所酒肴取扱候類も有之趣心得違之事に候向後御嚴禁乃事一 音信贈答右年限中堅無用了候御國往來餞別土産等同斷乃事

但親類中格別乃譯有之候え手輕乃品差遣候儀も可有之惣て是等之儀深切之心を盡し世話致し候を親類乃實儀と可相心得候少くても取繕候所有之候て親類乃實儀を申物よても無之候是等之所篤を可相辨候一 御屋敷内了て出仕往來乃節供廻り番頭御用人若黨草履取一人其以下も無僕よても不苦事但召使候家來人數も是迄乃仕來も不拘可成丈け可相省候

右之通可相心得候衣服髮飾之儀ハ今日より初全相改候を申候てハ差支可申候間來年始より一切右之通可相改候一旦も新たに拵候物有之却て失費之様も可存候得共何迄も持來乃品相用候てハ大儉乃廉目不相立遂に御法度破れ候本乃相成候間右之通被仰出候此旨万端思召以御手前格段之御取計に相成候了付他向乃風習を見競候体之儀一切無之御趣意專一に可相守候右ヶ條乃外諸事相准可致嚴畧候見分見苦敷儀ハ少も御構無之候間此旨篤と相辨へ非常乃節儉相立勝手向取直御奉公無懈怠相勤候様可心掛候全体御勝手御差支に付てハ一統御渡方等全被下置候儀も不被出來一統之困究ハ奢侈之風儀に依候計了ても無之候得共當時之御都合にてハ御増方被相増候儀等ハ如何に被思

召候ても暫不被出來候了付専ら大儉を以て御勝手方取直候様被仰付候事了候是迄も久敷艱難此上乃大儉了付候てハ猶又艱苦も可有之候得共畢竟面々勝手向取直平常父母妻子をも安堵爲致非常之變も有之節ハ一廉之御奉公相勤候儀出來候様了と被思召候て乃事了候其上上ハ臣民乃爲め如何様乃御艱苦をも不被爲厭御身乃廻り初嚴敷被遊候儀了候得共一統當分の艱苦を不厭後來上下乃安泰を可相待候右之通篤き思召を以て被仰出候御趣意をも不相辨御法相背候輩於有之と上下乃妨了相成候了付嚴敷御沙汰にも可被及候條末々了至迄心得違無之様精々可申付候事

今般御大儉被仰出一統へも儉約之儀被仰出候了付てハ上

久留米小史卷之十
この御思慮之被及候丈けを御盡被遊候儀了候得共末々乃
事不被遊御承知事も多く 上御一人之御思慮よて此度
之大儉可致成就をハ不被思召候尤も諸役人ハ思召を奉受
精々相勵み吟味を盡し候事了候得ハ猶下々乃存寄被聞召
度候に付御家中ハ不及申御扶持人等了ても御省略筋並下
々儉約之儀に付存寄有之候者ハ假令如何様之儀ぬり共少
も不差扣存分よ可申出候其趣意宜候得ハ直に御用よ可相
立候若間違等有之候ても其段ハ御用捨被仰付候儀に付無
懸念可申出候事
存寄有之候者ハ書付よ致し大横目御目付之中へ可差出候
左候得を右役より早速被入 御覽候事
同日奥詰中へ書付ヲ用席ヨリ相渡サレタリ

此度格別之思召を以御大儉被 仰付候に付てハ奥詰之面
々も御側近く罷出一統之目當りも相成候間格別之質素相
用候心得了無之候ても不相濟事な候綿服等之儀も一統今
日より相改候様よ申候てハ差支可申候間來年始より可
相改旨被仰出候得共於奥詰之面々ハ猶更心を用む一日を
早く一統乃手本に相成候様可心掛候此旨篤々相心得候様
と乃御沙汰な候事

同日諸役々へ書付ヲ用席ヨリ相渡サレタリ

今般被仰出候御大儉之儀ハ上りも御家之爲了御艱苦を不
被爲厭非常乃節儉被爲行候儀に候得ハ諸役々をも相勤候
者ハ能く御趣意を奉承知諸事精力を盡し吟味を加へ御失
費相省御省略筋了於て存寄有之儀ハ不聞可申出候其趣意

宜しく候得ハ直了御用ニ可相立候若間違等有之候共其段
ハ御用捨被遊候ニ付少しモ不差扣可申出候且又右之通之
思召被爲在上ハ諸役々了モ其思召を奉受候多上役乃威光
を以下扱押付候儀共無之實意を以篤々申合下役ハ諂候て
上を欺候儀無之且又實意を以急度申出候様可致何事モ上
下一和不致候てハ行届不申事了候此旨相心得候様と乃御
沙汰候

同日大横目方御目付中へ用席ヨリ相渡サレタリ
此度深き思召を以別紙之通一統へ被仰出候ニ付右様無格
之無差別其役方へ封書可差出候間少モ無遲滞直了受取早
速御前へ可差出候一体此度之儀を何方より了ても差出不
苦と乃御趣意了付下々了至其役方へ差出方遠慮等致候様

相成候てを決して不相濟儀了付其段精々相心得可罷在候事

同日奥附役中へ用席ヨリ相渡サレタリ

御前様御姫様

一年始五節句式日御模様付是迄通御召

一御平常ハ一切木綿可被爲召候

一御髮飾鬘甲銀類一切被相禁鹿品被遊御用候

一他所御出御模様付被爲召候節ハ是迄之通御平服被爲召
候節ハ木綿御召

一御客様乃節右同斷御嚴略中右之通被遊御心得候様可申
上旨御沙汰了候事

孝五郎様

一御上下一切麻

- 一 御上召一切木綿
 - 一 御下召紬太織類
 - 一 御帷子奈良以下同縞
 - 一 御袴木綿麻布
 - 一 御肩衣麻
 - 一 御羽織木綿布類
 - 一 年始御長上下御慰斗目
 - 一 五節句式日御上下御綿服
 - 一 御寺詣他向御出之節是迄乃通
 - 一 高輪御出乃節並御野出之節御平日乃通
 - 一 右之通御衣類之儀年限中御改了相成候様
- 御老女惣女中

- 一 年始五節句式日模様付乃節絹服着用可致候
- 一 平日一切木綿可致着用候
- 一 他所行模様付之節ハ是迄之通平服了相成候節ハ木綿着用可致候
- 一 御客様之節右同斷
- 一 髪飾鬘甲銀類ハ不相用鹿品可相用候
- 一 右今般御嚴畧中女中衣服髮飾右之通被相改候一体奥向之儀ハ御家中一統之見當了も相成候儀了付屹度可相心得候
- 一 萬一相背候者於有之ハ一統弛み候處了拘り候了付不得止
- 一 嚴敷御沙汰了も可被及候間心得違無之様可申聞旨被仰付候事

同日小性中へ用席ヨリ相渡サレタリ

當番其外御次へ相詰候内脇差之儀以來着坐之後爲了差置御路地御出等之節ハ帶劔了て可罷越候事

同日奥詰中へ用部屋ヨリ相渡サレタリ

奥詰之面へ御次へ罷出候節ハ以來ハ同所迄脇差持可參候尤御路地へ罷通候節ハ帶劔可罷在候事

同十一月朔日來已春入封ニ付衣服等左之通申渡サレ

タリ

來已夏御入部御道中之儀御大檢中にも有之上乃御行列向を始萬端御先例ニ不拘御取省外見無御構實用御差支無之迄之思召了有之候右了付御供一統末々了至迄專質素相用御着城之上御國中目當にも相成候様可心掛候惣て御旅中之儀ハ上下共行裝向等ハ可成丈け令省略武用了掛り候

品ハ手厚可相備事了候此儀ハ

大良院様御末年深尺思召を以被相改候儀も有之向後御遺志を被爲繼候御趣意了候尤武用了掛り候品も共外見取繕候儀無之實用專之可相心得候右御供之面へ都て御年限中別紙之通了相定候了付一統屹度可相守旨被仰出候事

一御供之面へ上着一切綿服可相用候帷子ハ奈良晒以下可相用候事

一羽織木綿可相用夏羽織ハ麻布細布之内可相用候尤馬乘

羽織可令着用候事

一踏込布綿可相用候事

一道中惣奉行ハ槍貳筋爲持候得共御家老御供有之節ハ一筋相可省候事

一番頭登弓為持候儀被相止候事

一番頭御用人刺具足為持候所荷具足可相用候事

一駕籠之儀番頭御用人長棒頭役臺輪駕籠其以下ハ一切垂

駕籠可相用候事

但御醫師之儀長棒被相止垂駕籠可相用候事

一番頭御用人之外長柄傘為持候儀被相止候事

右之通可相心得候其外諸道具類實用不差支様了て可成丈

可令省略候事

一御發駕御着城御道中同様了可相心得候此旨御供之面々

一統堅可相守候事

一太守様是迄御道中御野袴被為召候處思召有之候了付此

節より御踏込被遊御用候依て御家老中を始一統踏込可

令着用旨被仰出候事

一御道中大納戸方役名勘定方々可相唱候

一右同御小納戸役名御納戸々可相唱候

御駕脇御先供御發駕御道中並御着城之節半天股引馬乘羽

織可令着用候事

右之通向後被相改候旨被仰出候事

同五日目付中へ用席ヨリノ内意

御入部御供被仰付候面々具足櫃為持候面々は迄ハ荷物之

都合も有之歟了て形容計了為持自分之着領丈も入組持參

之者無之歟了御聞得以來ハ左様之儀了てハ不相成自分着

領丈け乃儀ハ是非持參候様了て乃御趣意了付夫々支配頭

へ右之御趣意之趣内々申聞置候然處御醫師以下小身之面

々ハ武器手當等極々難澁之面々も可有之右様乃類了ハ御
貸具足よても御渡可有之思召も被爲在候得共武器手當出
來不申向へハ上より御貸具足御渡を申儀ハ如何了付右乃
通之御趣意了候得ハ極々難澁之面々も候を御目付中へ申
談候様夫々支配頭へ申聞置候了付殊了寄候を相談乃向も
可有之候了付爲心得申聞候段馬淵貢よ初被申聞候
右之通御貸渡よも可相成候了付人々夫々目を掛人別御貸
渡之儀申出候様相成候てハ御趣意了も相觸候了付人々其
心得ハ可有之事了候得共極々難澁の趣意相立候分ハ御貸
渡了も可相成尤平組以上之分ハ御貸渡等之儀御僉議了不
被及御醫師以下之儀了付此旨相心得罷在候様是又被申聞
候

弘化二年正月公親筆ノ書ヲ目付中へ相渡サレタリ
目付役之儀ハ我等耳目之官了候得も家中ハ不及申重役之
事も見聞次第家老用席へ不及打合直よ我等へ可申聞職分
よ候然所近來之模様了てハ我等申聞候事も殊々寄一應用
席等へ打合候様相聞候様了てハ綱紀不相同候よ付此後相
改以來用席等へ不及打合諸事見分之次第直よ申聞候様可
致候尤事よより人々異見も可有之且事乃緩急も有之候へ
ハ事々同役中打合よも不及事よ候近來乃弊風よて新役ハ
古役乃存寄よ乃み隨候様の儀を申迄も無之曾て有間敷事
に候全体重役乃非等申出候得を却て禍よ逢候様乃事も有
之物を承り候此等ハ我等篤々相心得居候間其方共相勵可
相勤候此段屹度申聞候事

正月二十一日

目付中へ

同正月十九日幕府上納金ノ儀ニ付布告

今般御本丸御普請了付御上納金御願之通被爲蒙仰御家督初て乃儀御本意了被思召候右御上納金之儀ハ御手傳同様之儀了付一統掛銀等可被仰付候所連ハ御國中之困究ハ上了も兼ハ御承知被遊候當時極々御差支了付御救等ハ未被行届候得共此上少了ても下乃至難儀候儀ハ不被仰付御趣意了付此度格別之思召を以掛銀等ハ一切不被仰付候御勝手向も連年御困究之末昨年之御吉凶御物入莫大乃事了相及右御上納金御才覺何分出來兼候得共御家督以來非常之御大儉被爲行此上猶更被遊御艱苦候て御上納金被相整候

思召了付御領中一統右乃御旨を奉恐察掛銀差出候を心得夫高つ、貯置富者ハ人を救遣一貧者ハ人之世話了不成様心を用む手厚く相成上乃御安心被遊候様可心掛候此段御領中一統可相心得旨被仰出候

同四月五日公入封ニ付途上ノ心得ヲ發令ス

今般御入部御道中之儀御家風正敷被遊候御趣意了付上了も改て御定之儀も有之候了付御供之面ハ一統厚く相心得是迄之仕來風儀不宜筋等ハ一切相改萬端心を用不覺悟之儀等無之様可相心得候事御休泊等乃節是迄御駕御本陣立關間内へ昇入候仕來乃處以來立關敷臺了横付了被相定候右了付御供乃面ハ下宿へ着せしめ候節猶更心減用む不行作体等無之様可相心得候

事
御發駕當朝拍子木打候刻限是迄每日前夜相觸候處此度被
相改日々拍子木曉七半時壹番貳番六時三番六半時を被相
定候了付其通可相心得候事

但時宜了より御發駕刻限相替候得を其節了限り可相
觸候

右之通可相心得候惣て道中之儀ハ他向見分も有之候了付
御供乃面了別て心得方可有之事了候行裝衣服等之儀ハ去
冬よ初追了被仰出も有之且驛路御條目之儀も此度思召被
相加被仰出候了付堅相守違背乃儀無之様可相心得候是迄
御供之風儀不宜他所向をも不相憚士分不相應情弱不行作
之儀等有之趣相聞甚以心得違之儀畢竟仕來不宜より右体

乃事了成行如何敷事了候向後急度相心得猥成儀無之様可
致候右御家風正敷被遊候御趣意をも不相辨違背之者於有
之ハ罪之輕重被相糺屹度被 仰付候儀可有之候處右体乃
者見分次第早速可及言上旨役筋へ被仰付置候了付御供乃
面了末了迄心得違致間敷旨被仰出候事

同日驛路條目ヲ發令セラレタリ

今度驛路御條目之儀別紙之通被仰出候了付格式以上御供
之面了御殿へ出仕於溜之間御家老惣奉行御用席御用部屋
出席一統へ御記錄役讀渡可申候無格之者共了至候てハ支
配頭より無洩落可申渡旨被仰出候事

道中定

一從公義累年被仰出候御法度之趣彌堅可相守候事

一供之行列定之通相守之不可令混亂候事
一本陣幕前不限晝夜可令下乘候事
一途中了て諸家方且御朱印等行逢候節心得方此度改て相觸候通屹度可相守候事
一御家中末に迄喧嘩口論平日雖制禁於驛路猶以禁之假令理不盡之族有之候共令堪忍不可及爭論自然難黙止儀有之候も國元着之上可述所存候事
一他所者了對し禮讓を重んじ喧嘩口論等無之様此方了て禮儀相守可成丈と令堪忍候上彼方よ初理不盡之体於有之に其施了應し心得方可有之候無事を專了致し候迪未練之振舞於有之ハ沙汰之限了候是等之儀篤を相心得可罷在候事

一渡場之儀川割役中先達て罷越令裁判候條聊不及異儀任差圖猥了不可爭前後自然無據儀有之候も支配頭へ申達可受差圖候事
一下宿之儀先宿割役先達て相越宿礼爲打候了付割渡候通了任せ兎角乃儀申間敷事
一本陣了相詰候諸番人火用心乃儀堅申付尤後宿割役切了見廻るへ下宿の足輕了申付可相觸候事
一面に宿了おめて火用心堅可申付事
附下し煙草火用心堅可申付事
一晝夜之宿並馬繼了おめて召使之下し理不盡之儀申掛或も諸道具を損し此外放埒成体一切無之様堅可申付事
但駄賃宿賃ハ勿論沓艸鞋店物等之價無滯可遣事

一博奕賭之諸勝負禁止之召使之下へ堅可申付事
一亂酒高聲停止之惣て放蕩不行作之体決て無之様面へ相
慎召使乃下へも堅可申付事
一繼馬理不盡了雇ふをいらひ五十疋馬乃内人馬方へ相達
差圖次第了可受取候事
一家中召連人數並未へ迄衣服等相觸候通堅可相守候事
右之條々堅可相守候若大法相背候の糺罪を輕重速了可處
罪科候末々之者違背於有之て其頭主人可爲越度候此旨屹
度可相心得者也

弘化二年十月十五日大儉ノ發令ニ付親筆ノ書ヲ渡サ
レタリ

我等不肖之身を以國家を受繼候上ハ心力之限相盡政事正

敷領内士民之風俗を相改國家安泰了至り候様了を偏了存
入候然處勝手方連へ不如意之上近來別て差支且士民も追
へ及困究候趣相聞候右了付政事向難行届風俗も次第了手
薄成行此儘了ての非常異變之節を不及言平常の儀も難立
行了可至を家督以來深く致心配何卒上下共勝手方取直政
事向行届一統風儀宜相成候様を乃存寄を以去秋於江戸表
大儉約之儀申付手許を初萬端格別令省畧家中一統へも節
儉筋申付候右了付當地之儀ハ猶更嚴重主法相立此度非常
之大儉約申付候 公邊勤向武備手當並家中渡方之儀ハ格
別其外ハ萬端可成丈け可令省略候國家萬民之爲と存候へ
ハ我等一身之艱難ハ少も不厭候了付於役へ我等所存を相
受是迄之仕來へ不拘精力十分を盡し可取計候家中並在町

之儀ハ從來奢侈乃風俗ヲテ令困究候より其末遂リハ不筋
心得違乃儀ヲ落入候類も有之誠ヲ以歎ケ敷事ニ候畢竟年
來乃風習ニ付無據右乃次第ニ相成候も可有之候ニ付是迄
乃儀ハ一切差置此節より改テ右大儉約乃儀申付候條一統
我等心中相察非常乃節儉可相盡候全体領内士民ハ我等一
体乃儀ニ有之上下同心ニ無之テハ國中安泰ハ難出來事ト
存候我等乍不及精力相盡勝手方取直追々政事筋行届候様
可相勵候ニ付一統も能ク心を用銘々勝手向取直家中ハ士
分乃本意相守武備乃手當も相整在町ハ夫々産業令出精孰
此も手厚風俗ニ相成候様心掛上下安泰を可相待候此旨屹
度申付候也

國老有馬織部ヨリ別書相渡セリ

今般御大儉被仰出候儀ハ國家萬民之爲を思召上下勝手向
取直追々政事筋萬端行届一統風儀宜相成候様々乃深き思
召被爲在候事ヲ候右ヲ付諸役々をも相勤候者ハ能ク其御
趣意を奉承知諸事精力を盡吟味を加へ御入費相省屹度御
省略筋相立候様可取計候且御省略筋ヲ於て存付候儀ハ不
及申一体御政事筋ヲ於て存寄有之儀早速可申出候勿論他
役所之事あり共存寄有之儀ハ不聞可申出候若間違等有之
候共其段ハ御用捨被遊候間少も不差扣可申出候且又右之
通乃思召被爲在候上ハ諸役々も其思召を奉受候間上役ハ
威光を以下を押し付候儀無之又下ヲ打任せ役意を失候儀等
無之様實意を以篤々申含下役ハ諂候て上を欺候様乃儀無
之又工と上役を凌候儀等無之是又實意を以屹度申出候

様可致候何事も上下一和致候てハ行届不申事付此旨
相心得候様と乃御沙汰候事

同日大儉ノ條目ヲ諸士一統へ發令セラレタリ

今般以御直書被仰出候通り近年上下共及逼迫候段深く被
遊御心配御手元を始御家中並御領内一統共御大儉被仰
出當己年々來ハ酉年迄御年限被爲定是迄之例も不拘以
後之例も不相成全く制外被相定候

右付御家中乃面々末々迄御年限中萬端左之通可相心得
候

一衣服之儀上着綿服家族も上着帶付共一切可爲綿服候帷
子ハ縮類被相禁候下着も可成丈け鹿品可相用候帶ハ木
綿ノ糸入候品ハ不苦候事

但無格之者男女共上着下着襟袖口帶拘帶一切木綿可
相用候

一上下袴踏込並羽織一切麻布木綿之外相用間敷候尤横麻
上下も不可相用候事

一野袴格合了不拘相用間敷事

一拜領乃品あり共御定乃外一切可令遠慮候事

一他向了拘り候節も前文之通了付別段取繕了不及候事

一火事羽織夏冬兼可相用候夏火事羽織一切被相禁候事

但質素を本とんへき事了付追了仕替候節ハ其品心得
可有之候

一家族髮飾盃甲爪銀細工之品被相禁候髮掛輕ハ絹あり共
不可用候事

一惣て衣服髮飾高料之品相用間敷候事

一男女共七十歳以上乃者ハ老体乃事ヲ付能ク保養可致儀
ヲ付格別乃譯を以平日衣服勝手次第乃事

但無格末ノ迄右同然ノ候

一武器類ハ格別ノ候得共是亦實用を専ラセテ取飾様之
儀不可致候其外諸道具可成丈鹿品可相用候

但家族手道具等右ノ准ノ可成丈ハ鹿品可相用候

一家作普請之儀風雨防又ハ住居差支無據類ハ格別ノ候得
共右之外新規普請等ハ一切無用ノ候事

一産神祭禮之節家内心祝ヒ計ハ不苦候客相招候儀ハ堅ク
被相禁候事

一家督婚姻等重キ吉事之節近親限り料理等至テ手輕ニ致

一亂酒ノ不及様可致候江戸其外出立並歸着乃節も同然
ノ可相心得候右之外平常振舞酒宴等致候儀堅可相止候
事

一被召出並諸役被仰付候節も右同然可相心得候事

但全体諸御役共ノ仲間中之儀ハ新古相互ノ實意を以
可令熟談事ノ候處近來風儀不宜響應之厚薄ノより申
談方致相違候様之儀間ノ有之候由役ノより候てハ
仲間振舞莫大之費有之趣相聞心得違之至士分不相應
乃事ノ候以來屹度可相改候此後右体乃者於有之ハ先
列之者可爲越度候無格末ノ至候てハ猶更右之儀無
之様支配頭ハ精ク可申付候事

一屋敷替又ハ養子ノ罷越近邊爲振舞酒飯等差出候儀可相

止候事

一 嫁娶之節持參之道具是迄兎角奢ケ間敷儀有之勝手了也
 相障候趣相聞以來右道具且結納等了嚴敷可令省略候養
 子乃節持參道具同斷之事
 一 平常飲食乃儀も鹿薄乃品可相用候諸式日等ハ先ハ相止
 候と可相心得候事
 一 凶事年忌之節打寄飲酒有之趣心得違之事了候向後御嚴
 禁了候事
 一 諸役諸番所了於て酒肴取扱候類も有之哉了相聞心得違
 之事了候向後御嚴禁了候事
 一 年始門松本木相用候儀被相止候輕き枝松を以可相營候
 事

一 男女子有之雛兜幟破魔弓羽子板等形計可相心得候少も
 取飾候儀被相禁候事

一 音信贈答堅無用是迄素材令取遣候儀ハ可相止候産疱瘡
 等之節見舞之品取飾且産着雛兜破魔弓羽子板類取遣之
 儀も可相止候旅役乃節饒別土産等同斷乃事

但近親格別乃譯於有之ハ實儀相立候迄了手輕品差遣
 候儀ハ可有之候惣て是等乃儀深切了心を盡し世話致
 し候儀親類乃實儀を可相心得候少了ても取繕候處有
 之候てハ實儀と申も乃了てハ無之是等乃處篤を可相
 辨候

右之通了付末了乃者諸士中へ對し無禮無之様猶更可相慎
 候事

右之通可相心得候衣服髮飾之儀ハ今日よ初全相改候儀差支候も乃も間了を可有之候了付來午正月よ初一切右之通可相改候此度萬端思召を以御手元格段之御取計に相成候了付他向之風習を見競候様之儀一切無之御趣意専ら可相守候右ケ條の外諸事相減可致嚴略候見分見苦敷儀ハ少も不相構非常の節儉相用勝手向取直候様可心掛候全体御勝手方御差支了付てハ一統御渡方等全被下置候儀も不被出來一統乃困窮ハ奢侈の風儀了依候計了て無之候得共當時之御都合了てを御渡方等被相増候儀を如何に被思召候ても暫不被出來候了付専ら節儉を以勝手取直候様被仰付候事了候是迄も久敷艱難此上御大儉に付ても猶更艱苦も可有之候得共畢竟面々勝手取直平常御奉公乃儀を勿論非常

乃變有之節も一廉御用に相立候様被思召候て乃事了候其上上よえ臣民乃爲如何様乃御艱苦をも不被爲厭御手元を始嚴敷御省畧被遊候得て此旨篤々相辨一統當分之艱難を不厭後來安泰之御時節可相待候右の通厚き思召を以被仰出候御趣意不相辨御法度相背候者於有之は上下乃妨に相成候に付嚴敷御沙汰も可被及候條末々至迄心得違無之様精々可相守旨被仰出候事

同日郡村市街へ發令

今般以御直書被仰出候通近年上下共及逼迫候段深被遊御心配御手許を初御家中並御領内一統共御大儉被仰出當己年々來る酉年迄御年限被相定是迄乃例も不拘以後乃例了も不相成全制外了被相定候右了付在町一統御年限中左

之通可相心得候

一衣服乃儀男女共上着下着襟袖口帶拘帶一切綿服可相用候帷子の縮類被相禁候事

附唐木綿並高料乃染色被相禁候假令手織乃木綿帷子あり共可成丈け質素可致候

一在方上下着用乃者並町人上下麻木綿乃外横麻りても一切不可用候事

一髮飾盤甲爪銀細工乃品不可用髮かけ輕き絹あり共不可用候事

一惣て衣服髮飾高料乃品相用間敷候事

一男女共七十歳以上乃者の老体乃事りて能く保養可致儀り付格段乃譯を以平日衣服勝手次第の事

一手道具踏物等高料美麗乃品不可用至て鹿品可相用候事

一家作普請乃儀風雨乃防又ハ住居差支無據類ハ格別り候得共右之外新規普請等一切無用之事

一神事祭禮の神前向計仕來之通相行最寄の在町へ客來相禁候産神祭禮之節の赤飯御酒相備家内之心祝ハ不苦候

客共相招且配物致候儀被相禁候事

一寺社共年間一度之祭禮之外春祭夏分夜渡等之儀一切被相禁年間一度之祭禮あり共産神祭禮之外の内祝も仕間

敷候事

一寺社へ籠又ハ通夜や唱相集不宜風儀有之趣相聞へ候以來堅可相止候事

一於在町芝居相撲興行並祭禮之節輕業見せもの等被相禁

候事

一在町在來寺社乃外小祠石佛且庚申塔了ても親規取建被相禁候尤寺社境内或ハ往還端墓地等御物成御免之場所あり共同然了候事

一寺社ハ分限不相應之寄進等致間敷候事

一婚禮之節持參の道具是迄兎角奢ケ間敷儀有之趣相聞候以來右道具且結納等も嚴敷可令省略候養子乃節持參の道具等同様可相心得候料理向等も至て手輕了致亂酒了不及様可致候親類見知り合ハ振舞等相止先了へ相廻り候儀ハ勝手次第之事

附り若者より樽差送り或ハ若者共ハ樽持參押掛候儀有之趣相聞へ不宜事了候以來右体乃儀堅可相止候

一厄入賀祝等内祝を計了て相濟客相招候儀被相禁候事

一凶事乃節親類近邊打寄世話致候ハ勿論乃事了候併是迄酒食取扱却て莫大乃費相掛候趣相聞不宜事了候以來相互了深切申談無用之加勢人共相省實儀乃世話行届候様可致候事

附り吉凶其外少了乃事了も打寄酒食取扱費相掛候儀有之趣相聞へ候以來屹度可相改候勿論平生客相招酒宴等致候儀堅被相禁候

一年回佛事乃節兩親乃法事ハ近き續乃者計相招手輕乃非時差出候儀ハ不苦候其外年回ハ寺了相頼佛前計了て相濟親類近邊乃者相招候儀可爲無用候事

附り俗家了僧相招候儀平日ハ勿論年回佛事乃節あり

共堅無用了候

一 男女子有之者破魔弓羽子板雜幟乃類心祝遣候儀ハ有之候共取飾候儀ハ一切被相禁候事

一 音信贈答堅無用了候年始暑寒歲暮且役成諸願濟乃節一切右之通可相心得候産疱瘡等之節見舞之品或ハ産着雜兜類差遣候儀可相止候旅行了付餞別土産等同斷之事
一大庄屋町別當並五十貫目以上之分限五百石以上之田地持候者ハ別格乃儀御法モ有之候得共一切右之通可相心得候事

一 高料乃菓子其外美麗乃道具類致商賣候儀堅被相禁候事
一 伊勢參宮同他國入湯之儀可成丈可相止候併無據子細於有之ハ其筋へ可願出其次第了より可相濟候若心得違拔

參等致候者於有之ハ屹度可被仰付候事

一 在町男女共了三味線躍等乃遊藝令稽古候儀被相禁候尤盲目乃者ハ格別了候事

附り於在方警女坐頭乃外淨瑠璃三味線仕形晰等を以村了打廻候者共決て爲入込間敷事

一 於在方檢見諸見分之節飯差出候儀可成丈け手輕了可取量候酒肴差出候儀彌以被相禁假令其村方より不差出他所より差贈候品も共堅停止之事

附り檢見濟之上爲禮品物等差贈候儀被禁候若御定相背密了取計候儀於有之ハ不正乃儀相巧賄賂致候了相准了可申候事

一年始暑寒其外御家中役筋へ音物差出候儀も右同斷之事

一御家中一統綿服且無僕乃面も有之候間在町乃者共帶
刀乃人乃對一猶更禮儀可相盡候事

一博奕之儀元來御嚴禁は候處兎角心得違之者有之趣相聞
へ候下も乃困究多くも此儀は寄初候事も付以來在町共
猶更嚴密も可遂吟味候産業を暮方不引合乃者も所役人
別て可心付候事

右之通可相心得候衣服髮飾等は是迄御法度乃品も相弛み
居候哉了付今日より全相改候儀間も差支へ候者も可有
之候間來午正月か一切右之通可相改候此度思召を以御年
限中格段乃御取計了相成候了付他所の風儀等見競候様の
儀一切無之御趣意專一も可相守候右ヶ條の外諸事相准し
可致省畧候ヶ條も無之候共奢ヶ間敷儀有之銘も勝手向も

相障候様了ては御趣意了相背候事了付此旨篤を相辨へ萬
端可成丈け儉約可相盡候全体御勝手方御差支了付ては在
町共了御救等も不被行届此段ハ兼て深く御心配被遊候得
共只今乃御都合了ては御國中貧民一統へ乃御救等ハ暫不
被出來事了付只も此上貧者難儀不被相掛御趣意了付當春
掛銀ハ被差許尙又一統心安く取暮候様被思召候此度御大
儉乃儀被仰出候是迄久敷致貧苦候者御領内一統乃儀殊了
連も困究乃在町等無據物入の末了て別て難澁も可有之
此上御大儉も付ては猶更艱難も可致候得共畢竟銘も暮方
乃爲平常ハ勿論凶年取續も出來候様被思召候も乃事了候
其上上もハ萬民乃爲如何様御艱難をも不被爲厭御手許
を初嚴敷御省畧被遊候儀了候得ハ一統當分之艱難を不厭

後來安泰乃御時節を可相待候右之通厚き思召を以被仰出候御趣意をも不相辨御法度相背候者於有之ハ上下乃妨了相成候よ付當人ハ言了不及其所役人迄屹度被仰付候儀可有之候條心得違無之様精よ可申付旨被仰出候事

同日寺社へ發令

今般御直書を以被仰出候通近年上下共及逼迫候段深被遊御心配御手元を初非常乃御省略被相立且御領内一統へ御大儉被仰出候尤當己年より來る酉年迄御年限被相定是迄乃例了も不拘以後乃例了も不相成制外了被相定候右了付寺社乃儀も御年限中左之通可相心得候
一衣服乃儀官位了拘候冠服法衣乃外可相成丈け木綿麻等乃鹿服可相用候事

但官位了拘候品あり共廉目相立候迄了相心得美麗を競候様之儀無之様可致候事

一飲食之儀平生鹿薄乃品相用榮耀ケ間敷儀決て致間敷候事

但神前佛前備物等定式有之儀ハ其通之事よ候乍併神事佛事共誠敬を盡候を主せし可成丈け無用乃費相省候様可心掛候

一寺社堂塔其外共普請乃儀極よ大破よて風雨防兼候類ハ夫丈け乃手輕き取繕むハ格別右之外普請ハ一切可相止候事

一音信贈答被相禁候俗家へ取遣乃儀ハ不及申寺社相互乃交あり共贈答類一切可相止候他國へ參候節餞別土産も

同斷乃事

但社家へ氏子中よりは迄仕來候神納寺院の檀家より定例且凶事年忌等よて仕向乃儀を可令受納候を勿論候得共別段は彼是品を付合力等申向候儀致間敷候事

一 寺社へ籠り又ハ通夜を唱諸人相集候儀堅被相禁候事

一 開帳願出人寄せ等致候儀一切被相禁候事

一 僧侶在町俗家へ被相招罷越候儀平日ハ勿論佛事乃節あり共被相禁候事

但死亡有之節其家へ罷越候儀ハ是迄之通ぬえへ候一 祭禮乃儀寺社共年々一度祭禮乃外春祭夏祭夜渡等乃儀一切被相禁候事

但僧徒社人限り神前向等取計候儀ハ仕來乃通たえへき事

一 寺社祭禮乃節芝居相模興行且輕業見せ物等一切被相禁候事

右之通可相心得候衣服乃儀ハ今日より全相改候儀間了ハ差支も可有之候了付來午正月より一切可相改候此度格別乃思召を以御大檢乃儀被仰出上下共勝手向引直國家安泰了至候様を乃御趣意了付寺社の儀も御領内了罷在候得ハ右之趣相辨へ萬端心を用ひ質素節儉専ら了相盡取凌候様可致候段被仰出候儀相背候者於有之ハ御國法乃妨了付嚴敷御沙汰了も可及候且寺社乃下々違背乃者有之候ハ其寺院社家可爲越度候間末了了至迄心得違無之様精了可申付

候事

同日大儉ノ節目ヲ發令

御勝手向御差支乃儀了付てハ深く被遊御心配此度御年限被相定御大儉乃儀左乃通被仰出候

一公邊御勤向御代々様御法事御仕送等並御家中末々迄御渡方其外非常乃御備了掛り候御入用ハ不被相省候其外ハ可相成丈被相省御身乃廻り乃儀ハ猶更御省略被遊候事

一御平日御召物一切御綿服被爲召御上下御肩衣御袴等麻布木綿之外不被爲召候事

一御城を初諸役諸番所等格別之破損了て風雨之防難成又ハ御用差支之所を格別其外ハ御作事一切被相止候事

一月並式日并五節旬共御禮被爲受候迄了て御祝御膳等一切被相止候事

一年始御規式乃儀年始ハ輕き御祝御膳被召上候事
但御家老中御相伴御手廻外様御盃頂戴是迄乃通了候事

一御謠初御規式全被相止候事

一十一日御鏡餅御祝被遊候迄了て其外乃祝物被相止候事
但御家老中御相伴是迄乃通奥詰御手廻御鏡餅頂戴被相止候事

一立猪御鏡餅御祝被遊候迄了て其外御祝物被相止候事
但御家老中御年餅頂戴奥詰御手廻頂戴被相止候事
一御家老中乃外御家中乃面々年始御禮獻上乃品被相止候

事

一年始門松御本丸並大手御門二三乃丸御門計手輕乃小松
了て營と右之外所と御門松一切被相止候事
右乃通被仰出候了付一統其御趣意可奉承知候萬一上乃御
振合了於て右被仰出候御殿略乃御趣意了相觸候儀等見聞
了及候の假令御身廻乃儀多り共少も不差扣存分了可申出
候此旨御家中初末と迄無洩落屹度可被申渡候事

同日奥詰中へノ發令

今般被仰出候御大儉乃儀ハ上了も御艱苦ハ不被爲厭御手
元を始殿敷御省略被相立候御趣意了候右了付御側向相勤
候面とて一統乃目當了も相成候事了付猶更萬端心を用別
て質素乃實儀相顯風儀宜敷致候様可心掛候此旨屹度相心

得候様を乃御沙汰了候事

同日別段ノ發令

太守様御事國家を被爲受繼候上ハ御心力乃限り被相盡御
政事正敷御領内士民乃風俗を被相改國家安泰了至候様と
偏と被爲思召入候然所御勝手方連と不如意乃上近來別て
御差支且御家中在町も追と及困究候了付御政事難行届風
俗も次第了手薄く此儘了てハ非常異變乃節ハ不及言平常
乃儀も難被立行了可至と御家督以來深く御心配被遊何卒
上下共勝手取直御政事向行届風儀一統宜相成候様を乃思
召を以去秋於江戸表御大儉之儀被仰出御手許を初一統へ
も節儉筋被仰出候右了付當御地乃儀ハ猶更御殿略御主法
被相立此度非常乃御大儉被仰出候公邊御勤武備御手當並

御家中御渡方乃儀ハ格別其外ハ萬端可成丈け御省略可有之候國家萬民乃爲之被思召候得ハ上御一身乃御艱難ハ少しも不被爲厭候了付於役了上乃思召を相受是迄乃仕來了不拘精力十分を盡し可取計候御家中並在町乃儀ハ從來奢侈乃風俗了て之困究候ハ其末遂了ハ不筋心得違乃儀了落入候類も有之誠了以歎ケ敷事了被思召候畢竟年來の風習了て無據右之次第了相成候も有之候了付是迄乃儀ハ一切被差置此節ハ改て大儉約乃儀被仰出候條一統上乃御心中奉察非常乃節儉可相盡候全体御領内士民ハ上乃御一体乃儀了有之上下同心ハ無之候て之御國中乃安泰ハ難出來事之被思召候上了之御精力被相盡御勝手御取直追了御政事筋行届候様可被爲相勵候了付一統も能了心を用銘了

勝手取直御家中乃士分ハ本意を相守武備の手當も相整在町ハ夫了産業令出精熟也も手厚風俗ハ相成候様心掛上下乃安泰を可相待候此旨屹度被仰出候事

同日郡方町方へ別段發令

今般御大儉被仰出候儀一統是迄の風儀ハ差過候てハ次第ハ逼迫ハ可至儀を深被遊御心配以來儉約相盡安穩了立行候様之の御趣意了候然所未了てハ心得違も可有之候間其役了てハ別て心を用此度の儀ハ畢竟下の爲を被思召候了乃御事了候間末了至迄篤と令會得候様申諭方厚く可相心得候尤下役且大庄屋町別當共へ精了可申聞候事

同日諸役々へ發令

今般御大儉被仰出候儀ハ國家萬民乃爲を被思召上下勝手

向取直追々御政事筋萬端行届一統風儀宜相成候様との深
き思召被爲在候事了候右了付諸役々をも相勤候者の能く
其御趣意を奉承知諸事精力を盡吟味を加へ御入費相省屹
度御省略筋相立候様可取計候且御省略筋よ於て存付候儀
の不及申一体御政事筋了於て存寄有之儀早速可申出候勿
論他役所乃事より共存寄有之儀の不聞可申出候其趣意宜
候へハ直了御用了可相立候若間違等有之候共其段御用捨
被遊候間少も不差扣可申出候且又右之通思召被爲在候上
え諸役々をも其思召を奉受候て上役ハ威光を以下を押付
候儀無之又下了打任せ役威を失む候儀等無之様實意を以
篤を申含下役の諂候て上を欺候様乃儀無之是又實意を以
屹度申出候様可致候何事も上下一和不致候てハ行届不申

事了候此旨相心得候様との御沙汰了候事
賄賂乃儀の御法乃通一切有之間敷儀勿論乃事了候得共年
始暑寒或ハ諸願濟等乃上役筋へ音物差出候儀ハ本意乃様
了相心得候輩も有之哉は候是以賄賂了類了候事了付殿了
被相禁候下乃情上了通上乃意下は達候儀ハ上下乃役人
實意を以相熟し可申談儀了候聊音物乃有無は不拘事了候
條輕重乃諸役人下代小役人並在町了至迄堅可相慎若心得
違賄賂了類し御政道乃妨了相成致方於有之ハ受候者贈候
者双方共屹度可被仰付候尤役筋の外實意を以謝禮等ハ別
段之事了候此段御家中寺社在町へ無洩落可申渡旨被仰出
候事

同十一月二日會計ノ主法發令

御勝手方連年御差支近年了至莫大之御不足高了相成其上
昨年來重き御吉凶其外無御餘儀御物入相重り御繰合難相
立此儘了てハ彌御行詰り御公務を始御家中御扶助並御領
内御取扱も不被行届様可成行ハ必定了有之左候てハ御内
外難被相濟儀を御家督以來不一通被遊御心痛候且又萬一
昨年之通長崎表へ異船渡來其末異儀了も及候節自然御手
當等必至を不被行届御國役被相欠候てハ被對 公邊決て
不被相濟實了御家乃御大事よ可及儀を猶更被遊御苦心是
非共御勝手方御立直右体乃御備相應致出來候様を乃御趣
意了て江戸表ハ昨年御大檢被仰出當表之儀ハ今度非常乃
御嚴略被仰出追了御積被相立御勝手御引直乃目計も相見
候然所御借財之儀當冬よ至彌増莫大之高了相成御收納高

不相應乃儀了至り全御返下ハ扱置其内少了宛成共強て御
返下有之候へハ御勝手方目計難相立御手元を初非常御嚴
畧乃詮少も不相立のと取らハ前文乃通御大事よも及候事
よ候右よ付種了御思慮を被苦精了御吟味被仰付候得共數
年來疊來是迄目前押送の御取計よて被差過候末此節莫大
乃高よ及候事故只今よ至候てハ如何様御評議被相盡候共
最早御取計方無之強て被押送候へハ彌後來之害よ相成候
事了候依之一統可致難溢候へ共極了不被得止事調達銀御
返下御大檢御年限中全御借居被仰出候元來追了被仰出候
通非常御嚴略乃御趣意も全下乃爲を被思召候旨御自身御
艱苦をも被遊候事了候得ハ下の及難儀候筋可被仰出譯ハ
無之候得共此上只今乃儘了て被差過必至を御差支乃央萬

一不慮乃儀も有之節の御家乃御大事了至候了付無是非御用聞共ハ不及言在町困窮乃者共了至迄嚴敷御取立も無之候てハ急場難相濟左様も相成候てハ御國中一統乃難儀如何計可相増を深被遊御勘考候上被思召定御氣乃毒れから右御借居乃儀被仰出候事了付右御主法通了相成候得て御凌之道も相立當分の所乍聊御手當等も致出來上之御心中も少ハ被安候事了有之追ハ御勝手方屹度被引直上下安泰之場了も可至事了候孰も兼て御國恩を相辨調達銀無滞相納御用途不相欠段御満足被思召是迄御返下相滞候儀も御心中不被爲濟候所却て御借居被仰出候てハ難儀可致候御憐愍之思召不少候得共國家萬民之爲被遊御艱苦候御實意ハ不被得止事被仰出候儀了候間御苦心之段能了

奉恐察一身之難儀を以御國上下之爲了も相成候段本意之儀共相心得艱難可相凌候尤御借居被相定候上ハ勿論此後調達等ハ決して不被仰付候右之趣在町御用聞を始御用相働候者共末了迄委細可奉承知旨被仰出候

同日調達銀借居ニヨリ用聞商人列頭へ用席ヨリ申渡
セシ書付ナリ

今般以御書付被仰出御借居乃儀誠了以御心外被思召候得共連年御差支了付近來莫太乃御不足了及御收納方御不相應乃儀了相成如何様被相盡候ても御返下乃目計不相見候尤是迄強て御返下有之候了付直了納返被仰付候外無之年了右乃御都合了て被押送候故御借財も次第了相疊り此節乃御差支了も至り候事了候然ハ此儘被差過候得ハ彌増大

造乃高よ相成益御返下ハ難被出來遂よハ猶更莫太乃御借財高了相成候上りて矢張御借居乃外無之候了至可申候左候ては孰れも別て難溢強可有之候右様相成候方ハ只今御借居よ被相決以來調達不被仰付候儀孰もの難儀輕き方よて此後産業令出精候ハ銘よ所得よも相成身代可取續を被思召候得ハ今般乃御趣意被仰出候事之候追よ公邊向其外無御餘儀御物入も有之別て御艱難了候得共右之通一切調達不被仰付候了付専ら御嚴略を以御凌被相立御勝手方御引直可被遊と乃御事之候役人中精よ盡心力候得共畢竟不行届乃儀多御家督初方格別被遊御苦心候了至り候段奉恐入候事了有之候御用聞共へ申向方乃儀も是迄ハ御差繰乃方便方無據不答了も相成心外乃至了候此度思召を以諸事

明白了被仰出候よ付役よと於ても御趣意奉受以後猶更心を相勤候事之付孰も能よ此段令得意追よ被仰出乃趣相守艱難相凌可成丈け一統之融通不相塞様心掛可令渡世候此旨御用聞一統へ可申傳候事

同日浪人並郷村市街用聞中へ軍用金手當ニ不及旨發令

浪人並在町用聞共昨年御請之別紙御軍用金手當之儀御入用物相辨是迄令覺悟罷在御満了被思召候今般調達銀御借居被仰出候了付手當了不及旨被仰付候事

同日勝手方立直之儀ニ付諸士農商一統へノ發令御勝手方追よ御差支近年了至り莫太之御不足よ及向後御繰合難相立此儘了てハ公邊御動向も被相欠御家中御扶助

御領内御取扱も不被出來様可相成萬一不時之事も有之候
ハ如何様被相盡候共御手當行届間敷此儀 上之御心痛被
遊候ハ言了不及御家中初在町ニ至迄安氣難成事了候依之
御勝手方御取直乃儀被爲思召立當時之御差支常体乃事了
て御取直可被出來儀了無之候間去秋於江戸表非常之御大
儉被仰出萬端嚴敷御省略了相成於當御地ハ猶更御嚴略御
主法被相立候了付追々御勝手方御取直乃期も相見候然所
御領内御用聞共乃調達高連年相疊候高不相應莫太之儀
了有之是迄迪も御返下出來兼年々被押送事了相成候只今
了至此分御返下了相成候ハ御嚴略之詮不相立ハ勿論御
日用御渡方も必至々御差支了相成候是まで被押送候得ハ
調達高次第了相増御返下ハ彌難相成其上了て御借居了相

成候ハ御用聞共乃難儀彌増候事了付只今之内右調達高
御借居了相成以後調達不被仰付儀上下之爲無餘儀次第被
思召定此度御領内調達全御借居被仰出候右之通被相定候
了付てハ以後調達ハ勿論他所御借入等も無之候て兎哉角
可相立上乃御心も聊被安候儀了有之御家中在町共了少ハ
安氣乃事了候尤御主法了付御入用筋嚴敷減少よて御定高
被相極候了付以後御家中末々迄差定候御渡方等ハ決て不
被相省候ハ共其外之御手當ハ事了寄是迄乃通了も被行届
兼候儀可有之候全体是迄之御取計方了候ハ假令一旦之
難澁ハ無之候共御勝手方御取直之期無之候了付御家中増
上米在町不時乃調達等何時了も被仰付候も難量先々上下
共彌以困究了可至候此儀御心配被遊數十年來乃御差支を

御取直御主法被相立候了付てハ一旦乃難澁了相成候儀も可有之此段も深く御憐察被遊候へせも畢竟右増上米調達等不被仰付先々迄上下共了安泰了至候様被思召候て了事了候此度乃儀ハ上了ハ國家萬民乃爲御思慮を被苦不被得止被仰出候儀御用聞共ハ御國上下乃爲了難儀を引受候事了付一統御時合相辨屹度令覺悟艱難を凌御家中を御渡方了て相暮在町ハ銘々産業乃所得了て取續可成丈他乃世話了不相成勝手取直候様可相心掛此後上了も御省略被相盡御餘計も出來候上ハ士民御世話乃儀猶又如何様共被相盡候思召了候此旨御家中初在町に至迄篤々相心得候様被仰出候事

同日金銀貸借ノ儀ニ付發令

先般御獻金被蒙仰御領内一統掛り銀被差許候節富者ハ人を救む貧者ハ人乃世話了不相成様被仰出候儀ハ右掛銀了付て了事計了無之一体右之通可心得惣て借貸乃間ハ正路に致し貸候者ハ非道乃儀無之借候者ハ不咎乃儀無之様可致候近來風儀不宜不筋利勘を計り借用筋返辨不致様乃儀有之趣相聞甚以心得違之事に候以來借用筋屹度致返辨候様可心掛候尤無據物入等打續不得已返辨致兼候ハ實義を以双方可令熟談候右乃譯に無之彼是相巧に返辨不致者於有之ハ其次第に寄屹度可被仰付候尤貸候者ハ猶更手厚相心得人乃爲了相成候様可致候若高利を貪非道乃取計せしめ候様乃儀有之候え是又被仰付候儀も可有之候事
此度御領内調達御借居被仰出候儀ハ御勝手方御取直一統

安泰了至候様了を被思召格段乃儀を以被仰付候事了候然
所萬一末了乃者御趣意相辨兼心得違致實了無餘儀譯了無
之我慾乃筋を以返辨不致様乃儀も有之候てハ決して不相濟
事了候猶又右之趣能了可相辨候事

同十五日大儉發令ニヨリ諸役局定銀減少ノ儀取調方
申渡サレタリ

今般御嚴略乃儀被仰出候了付てハ諸役方御定銀等は迄も
追了御減了相成候末乃儀了ハ候得共尙又減方主法相立少
了上乃御間欠了相成候儀ハ御厭不被遊候間精了吟味を遂
御省略筋一杯乃見込取調差出候様其上了て尙被仰出候儀
も可有之旨御用席より口達了て諸役了へ被申聞候
同二十二日勝手方主法改正ニヨリ官民貸借ノ儀ニ付

發令

今般御勝手方御主法被相立諸事被相改候了付御年限中左
之通被仰付候

一御家中寺社在町是迄拜借銀年賦上納等有之分全不及返
納候事

一以來拜借銀之儀不被行届候事

但御家中至て小身極難儀之面了無據要用有之其譯於
明白ハ聊つハ乃儀ハ規格相立添役中ハ可取計候

一講銀乃儀致方了よりてハ風儀了も相拘り候了付添役方
承込候分ハ當冬ハ全被相止候事

但武器製作之爲仕立候講乃儀も同然了候是迄取當候
面了人了へ返辨乃儀ハ添役中へ可申談候其外ハ自

力を以追々可相拵候

一添役方へ預銀有之分渡方難行届追て下け金乃儀ハ御命
議可有之候事

同十二月五日言路ヲ開セラレ一統へ發令

今般被仰出候通國家萬民乃爲御政事筋御勝手方乃儀御精
力を被相盡候了付御領中一統乃存寄をも被聞召下乃情を
も委敷被遊御承知度被思召候依之御家中諸士ハ勿論輕御
扶持人並在町下賤乃者了至迄存寄乃儀ハ一々申出候様を
乃御趣意了候條御儉約筋御政事向其外諸役人乃上等をも
善惡了付御爲了可相成儀存付候ハ封書を以御側大横目御
目附兩役所之内了可差出候左候へハ封乃儘直了差上候間
其趣意宜時ハ速了御用了相立假令不相當乃儀も共御爲

を存申出候上ハ御察當無之候了付少も無懸念存分可申出
候此段御家中を初御領内一統可相心得旨被仰出候事

同日諸役人郷村出役了付發令

諸役人在方出役乃節村方等了て酒肴差出候儀ハ御法も有
之此度乃御趣意了付彌以被相禁候旨被仰出候然所是迄も
習て了相泥々紛敷取計を以酒肴出候儀有之趣相聞甚以
心得違乃事ハ候以來右体乃儀決て無之様堅可相慎候飯の
儀も可成丈け手輕取計少了ても取繕候儀有間敷候諸役人
始下代小役人等迄在方出役乃者右類差出候節差返候迄了
不相心得前以其儀無之様心を付嚴密了申聞候様可致候此
後不都合乃儀於有之ハ村役人ハ勿論在出役人等も時宜了
より屹度被仰付候儀可有之候條心得違無之様精々可申付

旨被仰出候事

同六日大横目目付中へ見聞筋心得書相渡サレタリ
今般御大儉被仰出候儀ハ國家萬民乃爲を被思召御政事正
敷一統風儀をも被相改候御趣意了候右了付其役方了てハ
別て心を用諸役を初御家中寺社在町一体乃摸樣委細令
見分聊乃儀あり共早速可及言上候足輕目付下目付聞合筋
乃儀ハ此度思召有之ケ條を以被仰付候了付精了相心得猶
更無洩落行届候様可致候何事了よらハ相暮候儀若外筋ハ
達御聽候迄其役方より言上無之候てハ全油斷ハ乃事了付
可爲無念候條此旨屹度可相心得候事
一此度御家中初在町了至迄存寄有之候ハ申出候様被仰出
候了付其役方へ書付差出候者有之節少も無遲滯直了御

前へ可差出候若末了乃者其役方へ差出方遠慮致候様乃
儀有之候てハ決して不相濟事了付精了相心得可罷在候尤
狩塚御門目安箱乃儀も猶更心を附相改入居候ハ早速可
入御覽候事

一御政事了付善惡評判且御身許乃儀取沙汰乃事
但諸御觸筋被仰出候節下了て引受方御趣意了致齟齬
候儀ハ無之哉觸出役人乃心得方齟齬乃儀無之哉且又
下了て可難有事も事情了寄却て及難澁候類承合可申
出候

一今般御大儉被仰出候以後御家中寺社在町共了衣食住を
始其外御ケ條乃趣相背候者有之候哉別て心懸令吟味早
速可申出事

一重役初諸役人下役在町役人よ至迄善惡邪正乃儀且諸役
其役方惣体よて締不締乃儀有之哉乃事

但御爲筋專一よ心掛功も有之者或ハ心得惡敷不埒相
見へ候者且大庄屋庄屋等屹度組村爲よ相成候者又
其所乃害了相成候者心掛可申出候

一諸役其役方惣体了て勤方繁多又ハ事少了有之右了應
上役下役共人数不足有餘乃体有之哉乃事

一御側向相勤候面了風儀善惡且御威光を借り下を押付乃
儀無之哉乃事

一御家中風俗並流行乃事柄且人の行跡善惡乃事
但文武專一了心掛衆人了も抽候者又ハ不行跡放埒了
て士分乃儀取失候者心掛可申出候

一寺社了於て奇異乃説等申立候様乃儀無之哉且御國法能
了相守候哉乃事

一在町難儀了相成候筋且所了寄相替候風儀流行乃事有之
哉且又孝行眞實了て格別奇特乃者或ハ非法狼籍所乃妨
了相成候者有之哉乃事

一賄賂ハ勿論役筋へ音物類贈候者受候者無之哉乃事

一諸役人初小役人了至迄在方出役乃節村方等了て酒肴差
出候体乃儀無之哉其外出役了付て村方難儀了相成候儀
且御家中陪臣在方へ非儀申掛難澁乃筋ハ無之哉乃事

一調達御借居被仲出候後御國中金銀融通筋不宜様乃儀無
之哉乃事

一借貸筋了付高利を貪非道を働又ハ我意を以不致返辨者

有之哉乃事

- 一 他領御境目了て彼方へ對し出入無之哉且御當領乃儀を利方了申唱他領の非儀乃と申立候様乃儀無之哉乃事
- 一 御家中在町訴訟人其頭支配迄申出候ても我意を以不取次者有之哉乃事
- 一 公事出入了付其掛乃役人不捌又ハ私曲有之情實相滯永引と相成下乃難儀了及候次第ハ無之哉乃事
- 一 公事出入決斷以後役人中依怙最負乃取沙汰有之哉乃事
- 一 一統風儀取沙汰落書等の儀迄承次第可申出候何事了よらひ不慥の儀ぬり共其儘了て可申出候且實否難相分儀人へ聞付方不同も候と打合等不致銘と承付候通り有休了可申出候事

但見聞筋乃儀足輕目付下目付共了打合候儀勿論致問
敷候

- 一 善惡乃事柄見聞致申出又ハ吟味相掛聞合申出候節御賞罰乃輕重打計申出方致差略候様乃儀決して有問敷事了候
- 一 足輕目付下目付共身分慎方聞合筋心掛乃厚薄別て氣を付可申出事

右ハ足輕目付下目付心得方の儀去々卯年被仰出有之候處
此度思召被相加別て肝要了可心掛廉々右の通ヶ條を以被
仰付候了付平世無油斷心を用承次第早速可申出候尤右之
外相替候儀等有之申出候儀ハ是迄之通可相心得此旨屹度
可申聞との御沙汰了候事

久留米小史卷ノ十終

明治廿七年十二月廿一日印刷
全 年十二月廿七日發行

定價金貳拾五錢

福岡縣筑後國久留米市莊島町七十八番地

著作者 戶田乾吉

全縣全國三潞郡島飼村大字大石百四十七番地

發行者 宮原直太郎

全縣全國全郡全村大字白山五百三番地

印刷者 荒卷宗

全縣全國久留米市三本松町七番地

印刷所 株式會社 觀文社



